

大邱市史

第一卷(通史)

大邱市史編纂委員會

題字：戊子新刊 嶺營藏板《詩傳》에서 集字(朝鮮 純祖 28年; 1828年)

發 刊 辭



未來를 준비하면서 오늘을 살고 있는 우리가 過去의 역사를 돌아보는 것은 祖上의 높은 氣象과 슬기를 繼承 發展시켜 後孫들에게 올바른 歷史觀과 價值觀을 定立시키기 위함입니다. 아울러 우리 고장 大邱를 사랑하는 마음은 大邱의 歷史와 人物, 文化財 등 祖上의 빛나는 文化 遺産을 바르게 알고 이해하는 마음에서 싹이 튼다고 할 수 있습니다.

예로부터 우리 고장 大邱는 오천년의 悠久한 民族文化의 發展過程에 있어서 중심적인 位置를 차지하였으며, 오늘날에는 文化發展의 原動力으로서 民族文化의 主權을 바로 세우는 良心이 되고 있습니다. 순박하고 끈기있으며, 人情과 義理를 尊重하며 由緒깊은 文化遺産을 간직한 大邱에서 살고 있는 우리는 이러한 祖上의 빛나는 遺業을 거울삼아 21세기를 준비하는 世界化의 물결속에서 우리 고장 大邱를 세계속의 中心都市로 發展 傳承시키기 위하여 각자의 能力과 創意를 發揮할 때 입니다.

20세기를 보내고 21세기를 맞이하는 大轉換의 時期에 우리 고장 大邱의 變遷過程을 한 눈에 살펴보고 슬기로운 祖上의 발자취를 더듬어 봄으로써 未來의 우리 鄉土를 가꾸어 나가는데 里程表가 될 『大邱市史』의 發刊에 있어 大邱를 아끼고 사랑하는 모든 분들과 기쁜 마음을 함께하고자 합니다.

모두 6卷으로 集大成한 『大邱市史』는 우리 고장 大邱의 位相과 立志를 새롭게 가다듬고 다가오는 2천년대 世界속의 主役都市로 펼쳐나갈 웅대한 未來像과 튼튼한 設計, 참된 市民精神을 定立하고 鄉土愛를 북돋아 나가는데 뿌리가 되어 줄 것입니다.

끝으로 『大邱市史』의 發刊을 위해 애써주신 編纂委員, 執筆委員, 그외 關係職員 여러분에게 深深한 感謝를 드립니다.

1995. 1.

大邱廣域市長 曹海寧

大邱의 象徵



- 시기(市旗)
- 시화(市花) / 목련
순박, 순결, 희생정신의 시민기질
- 시목(市木) / 전나무
강직성, 영원성, 끈게 뻗어가는 시민의 기상

시민헌장

우리들은 신라문화의 유구한 전통의 계승자이며, 인제자로서 성스러운 이상과 명예로운 의무에 사는 대구시민이다.

인간의 가치로움과 평등의 이름아래 모이고 일하며, 우리들 스스로가 마련한 우리들의 법률을 지키고 행할 것이며, 정다운 가정을 이룩하여 이웃을 사랑하고, 내고장의 풀 한포기, 돌 하나에도 서로가 이해로써 아끼고 가꾸어, 우리 모두의 것으로 책임을 다할 것이며, 보다 밝고 의젓한 시민으로서 귀여운 우리의 아들 딸들에 물려줄 크고 알찬 새 도시의 창조자이자 임자임을 자부한다.



- 시조(市鳥) / 독수리
활달하고 진취적인 기상과 개척자적 시민정신

대구시민의 노래

— 힘차게 —

대구시 제정
백기만 작사
유재덕 작곡

mf *V*

팔 공 산 줄 기 마 다 힘 이 — 맺 히 — 고
지 세 도 아 름답 고 역 사 — 도 길 어
세 계 에 자 랑하 던 신 라 — 의 문 — 화

V

낙 동 강 구 비 돌 아 보 담 아 주 — 는
인 심 이 순 후 하 고 물 화 도 많 — 다
은 전 히 이 어 받 은 우리 의 향 — 토

mf *V*

질 편 한 백 리 별 은 이 — 름 난 복 지
끝 없 이 뻗 어 나 간 양 — 양 한 모 습
그 문 화 새 로 한 번 빛 — 이 날 때 에

f *V* *mp*

그 — 복 판 터를 열 어 이 — 룩 한 — 도 읍
삼 — 남 의 제 일 용 도 나 — 라 의 — 심 장 우리
정 — 녕 코 온 누 리 가 찬 — 란 하 — 리 라

cresc *<* *<* *<* *f* *<* *ff*

는 — 명 예 로 운 대 구 의 시 — 민

< *<* *<* *V* *<* *<* *<* *<*

들 어 라 드 높 으 게 희 — 망 의 — 불 꽃
들 려 라 우 령 차 게 건 — 설 의 — 바 퀴
숫 아 라 치 숫 아 라 이 — 상 의 — 날 개



大邱廣域市廳



大邱廣域市議會

凡 例

- 一. 이 책은 大邱市의 政治, 行政, 産業, 經濟, 社會, 文化의 變化를 기술한 大邱市史이다.
- 一. 第一卷은 自然的 基礎와 先史에서 現代까지의 通史篇이고, 第二卷에서 第五卷까지는 分類史로서 主로 光復이후의 歷史를 다루었다. 第二卷은 政治·行政篇, 第三卷은 産業·經濟篇, 第四卷은 社會篇, 第五卷은 文化篇이다. 建築은 分量관계로 社會篇과 같은 卷에 收載했으며, 第六卷은 資料를 收錄하여 모두 13篇을 6冊으로 나누었다.
- 一. 本文은 國漢文 混用을 原則으로 하되, 目次와 篇·章·節의 題目, 固有名詞 및 혼동할 염려가 있는 용어는 漢字를 사용하였다.
- 一. 內容은 斯界의 專門家로 委囑된 執筆委員이 專攻分野別로 나누어 執筆하였고, 編輯委員會의 責任아래 監修 編輯過程을 거쳤으며 內容의 重複을 피하고 統一性을 기하기 위해 刪補한 경우도 있다.
- 一. 內容의 正確을 기하기 위하여 脚註를 달았으며, 일부의 경우는 參考文獻만을 提示하였다.
- 一. 目次는 篇·章·節·目·項으로 分類하였다
- 一. 1995年 1月 1日 市の 名稱이 大邱直轄市에서 大邱廣域市로 變更되었다.

目 次

發 刊 辭

第一篇 自然的基礎

第1章 位置와 地理的 特性	19
第1節 位置와 境域	19
I. 數理的 位置	19
II. 關係的 位置	20
第2節 市域의 變遷	21
第3節 大邱市의 地理的 特性	23
I. 典型的인 內陸盆地都市	24
II. 南韓의 暑極都市	24
III. 韓國 纖維工業의 메카	25
IV. 東南經濟圈과 環東海經濟圈의 據點都市	26
第2章 地 質	27
第1節 嶺南地方의 地質構造	27
第2節 大邱市域의 地質	30
I. 中央의 水成堆積岩 地帶	30
II. 南部의 火山岩 地帶	32
III. 北東部の 花崗岩 貫入地帶	33
IV. 河川 沿邊의 第四紀層	33
第3節 大邱의 地史	34
I. 白堊紀 以前の 오랜 乾陸狀態	34
II. 水中 堆積	34
III. 심한 火山 噴出과 水中 堆積	35
IV. 花崗岩의 貫入	35
V. 白堊紀 以後의 安定	36

第3章 地 形	37
第1節 地形 概觀	37
第2節 北部山地	39
I. 八公山塊	40
II. 環狀山脈	42
III. 八公山 斷層	42
第3節 南部山地	43
第4節 中央低地	45
I. 琴湖江 氾濫原	45
II. 新川 氾濫原	46
III. 八溪川 沖積平野	48
IV. 辰泉川 沖積平野	49
V. 盆地緣의 扇狀地	49
VI. 東部丘陵地와 侵蝕低地	49
VII. 西部 侵蝕低地	51
VIII. 臥龍山 丘陵性 山地	51
第4章 氣 候	52
第1節 一般的 特性	52
第2節 氣 溫	53
第3節 降水量	59
第4節 바람	64
第5節 相對濕度	66
第6節 自然季節	68
第5章 土壤・植生	74
第1節 土 壤	74
第2節 植 生	76

第二篇 先史 및 古代

第1章 青銅器時代 以前の 文化情況	81
第1節 新石器時代 以前の 大邱	81
第2節 新石器時代の 情況	85
第2章 青銅器時代	89
第1節 青銅器時代の 設定	89
第2節 遺蹟과 遺物	91
I. 住居址	92
II. 遺物散布地	98
III. 墳墓遺蹟	102
第3節 社會와 文化	118
第3章 初期鐵器時代	121
第1節 初期鐵器時代の 設定	121
第2節 遺蹟과 遺物	121
第3節 社會와 文化	128
第4章 三韓時代の 大邱	131
第1節 辰·弁韓의 成立과 小國의 性格	131
第2節 大邱地域의 小國成立	141
第3節 小國時期의 信仰形態와 大邱地域의 原始信仰	151
I. 天君의 出現과 祭儀	151
II. 山岳信仰과 山神崇拜	155
III. 藝術活動에 反映된 原始信仰	159
第4節 遺蹟·遺物로 본 三韓時代の 大邱	161
I. 考古學上の 三韓時代	161
II. 主要 遺蹟	162
第5章 三國時代の 大邱	172
第1節 新羅의 成長과 大邱	172

第2節 新羅의 地方統治 實態와 大邱地域의 支配	182
第3節 佛教의 傳來·發展과 大邱	191
I. 佛教의 傳來와 受容過程	191
II. 原始信仰의 佛教的 變容	198
III. 國家佛教의 成長	200
第4節 遺蹟·遺物로 본 大邱地域의 社會와 文化	202
I. 國家의 形成	202
II. 4世紀의 大邱	207
III. 5~6世紀의 大邱	208
IV. 新羅에의 併合	230
第6章 統一新羅時代의 大邱	236
第1節 新羅의 三國統一과 大邱의 變化	236
I. 郡縣制의 實施와 大邱地域의 郡縣	236
II. 達句伐 遷都計劃과 大邱地域의 位相	244
第2節 景德王代 地方制度의 再編과 大邱	252
I. 景德王代의 漢化政策과 大邱地域의 郡縣改編	252
II. 大邱地域 郡縣의 內部狀況	254
第3節 下代 社會의 變動과 大邱地域의 情勢	255
I. 王位爭奪戰의 展開와 大邱地域	255
II. 大邱地域 豪族의 實體와 그 行方	260
第4節 佛教의 隆盛과 大邱	264
I. 敎學佛教의 發達과 禪宗의 登場	264
II. 心地와 桐華寺 創建	268
III. 佛教와 對立된 思想으로서의 儒敎의 擡頭	274

第三篇 高麗時代

第1章 後三國 鼎立期の 大邱地域과 公山戰鬪	281
-------------------------	-----

第1節 公山戰鬪의 發生背景	282
第2節 公山戰鬪의 進行過程과 結果	292
第2章 大邑中心의 郡縣制度 整備와 大丘縣의 變遷	303
第1節 郡縣制의 整備와 變遷	303
I. 高麗前期 大邑中心 郡縣制의 成立과 實狀	304
II. 高麗後期 大邑中心 郡縣制의 變化	310
第2節 大邱地域 郡縣들의 沿革	312
I. 大丘縣과 嘉昌都護府의 關係	312
II. 大丘縣의 縣令官으로 昇格과 發展	320
第3節 東京·尙州 등 界首官内 郡縣들의 行政體系	323
I. 東京留守官과 尙州牧의 職制와 行政組織	323
II. 大丘縣 등 屬邑의 行政體系 및 鄉吏組織	329
III. 慶·尙州道를 비롯한 交通路와 驛站	335
第3章 民亂과 外侵	343
第1節 武臣政權과 農民·賤民의 抗爭	343
I. 農民·賤民 抗爭의 展開樣相	344
II. 農民·賤民 抗爭의 性格	353
III. 農民·賤民 抗爭의 發生要因	355
IV. 農民·賤民 抗爭의 限界와 그 歷史的 意義	360
第2節 桐華·符仁 兩寺를 비롯한 僧侶들의 抗爭과 中央軍의 戰術·戰略	361
I. 武臣政權期의 佛教界 動向	361
II. 桐華·符仁 兩寺를 비롯한 僧侶들의 抗爭과 崔忠獻의 對應	369
第3節 蒙古軍의 南進과 嶺南地域	375
I. 高麗와 蒙古와의 接觸	375
II. 蒙古의 高麗 侵入과 嶺南地域	379
第4節 倭寇의 侵入과 大邱	386
I. 倭寇의 侵入과 그 被害	386
II. 倭寇防禦體制의 構築과 大邱	390
第4章 高麗의 文化와 大邱	393

第1節 佛教思想의 變化와 大邱地域의 佛教文化	393
I. 佛教思想의 變化	393
II. 大邱地域의 佛教文化	397
第2節 儒學思想의 變化와 그 文化	404
I. 儒學思想의 變化	404
II. 性理學의 傳來와 普及	407
第3節 敎育·科學制度와 大邱	413
I. 敎育制度	413
II. 科學制度와 大邱地域의 及第者	418
第4節 風水地理說과 民間信仰	423
I. 風水地理說과 大邱	423
II. 民間信仰과 大邱	427
第5節 大邱의 遺物·遺蹟과 人物	433
I. 大邱의 遺物	433
II. 大邱의 遺蹟	438
III. 大邱의 人物	443

第四篇 朝鮮前期

第1章 地方雄府로서의 大丘都護府의 成長	455
第1節 朝鮮初期 地方制度의 整備와 大邱	455
I. 郡縣制의 整備와 大丘府域의 擴張	455
II. 大丘府의 行政體系와 面里編成	465
III. 大丘府의 京在所와 留鄉所	476
第2節 軍制의 整備와 大丘府의 軍事組織	483
I. 朝鮮前期 兵制와 郡縣軍制	483
II. 鎭管制의 實施와 大丘府의 兵役體系	491
III. 鎭管制의 變化와 制勝方略	498

第3節 交通・通信과 大邱府의 位置	503
I. 道路網과 大邱地域의 驛院	503
II. 通信體系와 大邱地域의 烽燧	512
III. 運輸體系와 大邱租賦의 陸運・漕運	517
第2章 大邱府의 社會・經濟的 成長	520
第1節 大邱府의 人口動向과 鄉村社會의 成長	520
I. 編戶方式과 戶口統計	520
II. 身分階層과 姓氏分布	527
第2節 大邱府의 經濟的 成長	534
I. 農業生産力の 増大와 農地擴大	534
II. 地方商工業의 成長과 對外交易	543
III. 貢賦・進上과 地方財政	552
IV. 大邱府의 社倉設置와 그 運營	563
第3章 朝鮮前期 文教政策과 大邱의 文化	575
第1節 朝鮮初期 文教獎勵策과 大邱郷校	575
I. 朝鮮初期의 崇儒政策과 文教獎勵	575
II. 大邱府의 郷校와 書堂教育	587
III. 書堂教育과 書齋	593
第2節 嶺南學派의 成立과 大邱文風의 勃興	596
I. 性理學의 深化와 嶺南學派의 確立	596
II. 書院의 勃興과 大邱士林의 成長	607
第3節 佛教의 衰退와 民間信仰	628
I. 朝鮮初期의 抑佛策과 寺院의 整備	628
II. 淫祠禁斷策과 民間信仰	633
第4節 朝鮮前期 大邱地域의 文學과 藝術	642
I. 大邱地域의 文學	642
II. 書畫 및 建築	649
III. 民間演藝	656
第4章 倭・胡兩亂과 大邱	660

第1節 倭亂의 勃發과 大邱地域의 義兵活動	660
I. 壬亂前後의 國內外 情勢와 戰勢推移	660
II. 義兵活動과 倭賊의 敗退	671
III. 倭亂의 影響과 大邱府의 位置	684
第2節 丙子胡亂과 大邱	687
I. 胡亂의 勃發과 大邱地域의 動向	687
II. 胡亂의 收拾과 그 影響	697

第五篇 朝鮮後期

第1章 支配體制의 變化와 行政都市로의 定立	701
第1節 監營의 設置와 行政組織	701
I. 監營의 設置와 邑城의 築修	701
II. 府域의 變遷	707
III. 大邱의 行政組織	711
第2節 軍制의 改編과 大邱	719
I. 朝鮮後期の 軍制改編	719
II. 大邱의 軍事編制와 그 規模	724
第3節 交通·通信의 整備와 大邱	735
I. 道路와 院	735
II. 驛·擺撥 및 烽燧	743
第4節 近代的 地方制度의 改編	751
I. 地方制度의 改編과 大邱	751
II. 軍制改革과 大邱	755
第2章 社會構成의 變動과 經濟都市로의 成長	761
第1節 社會構成의 變動	761
I. 戶口의 增減 및 分布와 그 變動	761
II. 府民의 身分職役 構成과 그 變動	768

III. 同族部落과 特殊部落	781
第2節 經濟都市로의 成長과 財政	786
I. 農業의 變化	786
II. 手工業의 發達	797
III. 場市 및 藥令市の 發展	801
IV. 財政과 府民의 負擔	816
第3章 文化의 새 氣運과 文化都市로의 發展	829
第1節 大邱地域 儒學界의 動向	829
I. 大邱地域 士林의 中央政界 進出	829
II. 嶺南學派의 發展과 大邱地域	833
第2節 官學의 衰退와 私學의 發展	841
I. 鄉校의 衰退	841
II. 書院·祠宇와 鄉村書堂의 發展	848
第3節 文藝의 새 傾向	859
I. 中人 및 庶民 文化의 發展	859
II. 美術의 새로운 樣相	864
第4節 宗教界의 變化	866
I. 佛教界의 變化	866
II. 天主教의 傳來와 定着	870
III. 東學의 成立과 發展	875
第4章 外勢의 侵略과 地域民의 抵抗	879
第1節 近代社會로의 移行과 大邱地域	879
I. 日帝의 侵略과 大邱地域	879
II. 近代的 教育機關의 擡頭	883
III. 基督教의 傳來와 定着	887
IV. 日本居留民團의 實態	890
第2節 抗日運動과 地域民의 活動	893
I. 義兵運動과 그 實相	893
II. 國債報償運動과 그 實相	902

第六篇 日帝強占期

第1章 日帝 植民支配와 大邱地域의 行政	913
第1節 日帝 植民支配의 展開	913
Ⅰ. 日帝의 政治的 侵略과 植民地化	913
Ⅱ. 日帝 植民政策의 變化와 그 樣相	919
Ⅲ. 農民·勞動者의 狀態	922
第2節 大邱의 行政區域 改編과 行政機構	925
Ⅰ. 行政區域의 改編	925
Ⅱ. 行政機構와 事務分掌	929
Ⅲ. 府協議會 및 府會	933
第3節 大邱府 行政의 實態	936
Ⅰ. 財務行政	936
Ⅱ. 土木行政	941
Ⅲ. 產業行政 및 保健衛生行政	946
Ⅳ. 社會福祉施設	948
第4節 大邱의 其他 公共機關	950
Ⅰ. 軍事機關	950
Ⅱ. 司法機關	951
Ⅲ. 警察機關	953
Ⅳ. 其他 機關	954
第2章 大邱地域의 產業과 經濟	958
第1節 日帝 農業政策의 變化와 大邱地域	958
Ⅰ. 1910年代 土地調査事業과 土地의 掠奪	958
Ⅱ. 1920年代 產米增殖計劃의 實施와 그 實體	960
Ⅲ. 1930年代 農村振興運動의 展開와 그 實體	968
Ⅳ. 1940年代 戰時收奪體制와 朝鮮增米計劃	970
第2節 大邱地域의 農業 侵奪	973
Ⅰ. 大邱地域의 農業과 農村의 實態	973

II. 主穀의 栽培 實態와 收奪	979
III. 特殊作物의 栽培와 收奪	982
第3節 産業의 侵奪과 民族資本	991
I. 公共事業 및 資源의 獨占과 大邱地域	991
II. 金融의 支配와 大邱地域	996
III. 民族資本의 受難과 大邱地域	1000
IV. 商業界의 變化	1006
第4節 交通과 運輸	1010
I. 鐵道敷設과 大邱地域	1010
II. 鐵道 運輸의 實態	1014
III. 道路 交通網의 整備	1017
第3章 大邱地域의 獨立運動	1019
第1節 啓蒙運動과 大邱地域	1019
I. 全國規模 啓蒙團體와 大邱地域	1019
II. 大邱地域의 啓蒙團體	1022
III. 近代教育機關과 救國教育	1028
第2節 1910年代의 獨立運動	1032
I. 獨立運動團體의 組織과 活動	1032
II. 3·1 獨立萬歲運動의 展開	1042
III. 儒林團의 獨立請願運動	1046
第3節 1920年代의 獨立運動	1050
I. 獨立運動團體의 組織과 活動	1050
II. 6·10萬歲運動의 展開	1066
III. 新幹會 大邱支會	1067
IV. 義烈團의 武力抗日運動	1071
V. 女性運動	1074
VI. 青年運動	1076
VII. 少年運動	1078
VIII. 衡平運動	1082
IX. 學生運動	1085

第4節 1930年代 以後의 獨立運動	1091
I. 抗日獨立運動團體의 組織과 活動	1092
II. 學生抗日祕密結社의 組織과 活動	1094
第4章 大邱地域의 教育	1108
第1節 日帝의 植民地 教育政策	1108
I. 近代教育의 始作(1876~1894)	1108
II. 近代教育의 發展(1895~1905)	1110
III. 近代教育의 擴大(1905~1910)	1113
IV. 日帝의 植民地 教育(1910~1945)	1116
第2節 初等教育의 實態	1122
第3節 中等教育의 實態	1132
第4節 專門教育機關	1146
第5節 民衆教育機關	1147
第5章 大邱地域의 文化	1156
第1節 概 觀	1156
第2節 文學의 새로운 傾向	1159
I. 詩	1159
II. 小 說	1163
III. 兒童文學	1166
IV. 漢文學	1168
V. 評 論	1169
第3節 西洋 藝術의 流入	1170
I. 音 樂	1170
II. 美 術	1173
III. 演 劇	1177
IV. 映 畫	1178
V. 寫 真	1179
VI. 近代建築	1180
VII. 體育・舞蹈	1181
第4節 言論 및 出版	1183

第5節 日帝의 彈壓과 宗教의 變質	1188
I. 佛 教	1188
II. 天主教	1190
III. 改新教	1192

第七篇 現 代

第1章 政治狀況의 變遷과 大邱市	1199
第1節 解放과 軍政期	1199
I. 日本의 敗亡과 社會秩序	1199
II. 美軍政과 過度政府下の 大邱	1202
第2節 第一・第二共和國 時期	1205
I. 政府樹立과 大邱 情勢	1205
II. 6・25동란시의 大邱	1207
III. 休戰協定 以後의 大邱 情勢	1209
IV. 2・28과 4・19 學生義舉	1211
V. 民主黨 政權과 大邱	1212
第3節 第三・第四共和國 時期	1214
I. 5・16軍事政權과 大邱	1214
II. 維新政治와 그 終末	1216
第2章 大邱直轄市 時代	1220
第1節 直轄市 昇格	1220
第2節 産業・經濟의 發展	1223
第3節 教育・文化의 發展	1225

第 二 卷 (政治·行政)

第 八 篇 政 治

第 1 章 解放直後の 政治動向

第 2 章 美軍政時代

第 3 章 第1共和國時代

第 4 章 第2共和國時代

第 5 章 第3共和國時代

第 6 章 第4共和國時代

第 7 章 第5共和國時代

第 8 章 第6共和國時代

第 九 篇 行 政

第 1 章 行政體制

第 2 章 市 議 會

第 3 章 市政施策

第 4 章 都市計劃과 都市開發

第 5 章 財 政

第 三 卷 (産業·經濟)

第 十 篇 産業·經濟

第 1 章 總 說

第 2 章 農·林·畜産業

第 3 章 鑛 工 業

第 4 章 流通 및 서비스産業

第 5 章 對外貿易

第 6 章 金 融

第 7 章 建設과 住宅

第 8 章 交通·運輸·情報通信業

第 9 章 에너지産業

第10章 物價및 消費動向 推移

第11章 企業, 企業人 및 企業經營

第12章 勞動運動과 勞使關係

第13章 觀光 및 「레저」

第14章 經濟團體 및 經濟關聯 研究機關

第15章 大邱經濟의 課題와 展望

第 四 卷 (社會)

第 十 一 篇 社 會

第 1 章 人 口

第 2 章 住 宅

第 3 章 交通·運輸

第 4 章 情報·通信

第 5 章 環 境

第 6 章 社會福祉

第 7 章 市民意識

第 8 章 大邱市域 村落社會의 都市化

第 9 章 大邱의 建築

第五卷(文化)

第十二篇 文 化

- 第1章 教 育
- 第2章 藝 術
- 第3章 言論·出版
- 第4章 文 化 財

- 第5章 體育·스포츠
- 第6章 宗 教
- 第7章 民俗文化

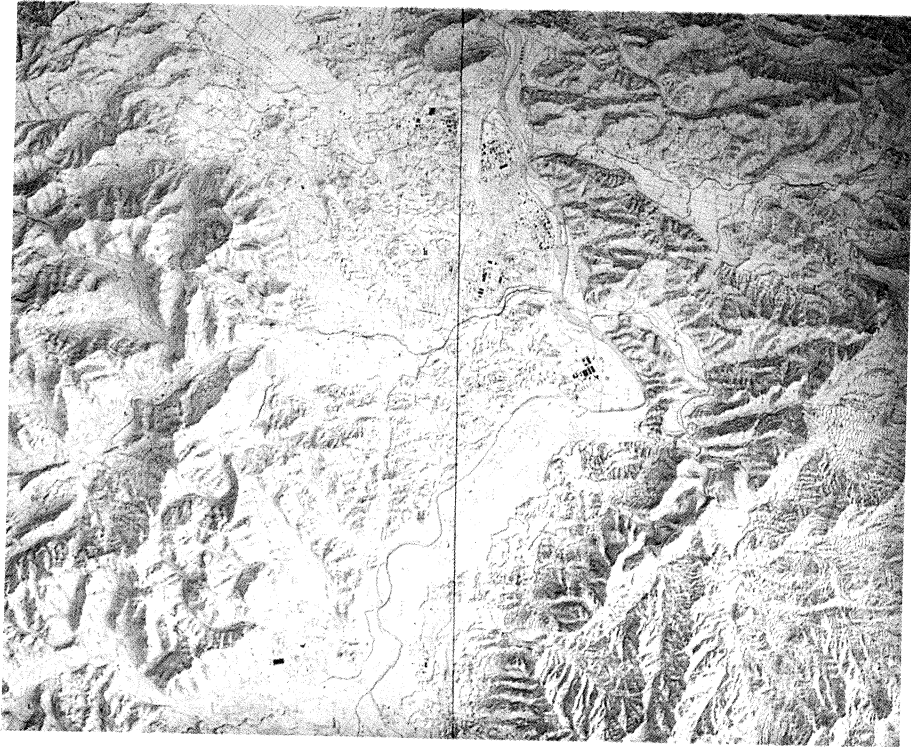
第六卷(資料)

第十三篇 資 料

- 第1章 三韓時代
- 第2章 三國時代
- 第3章 統一新羅時代
- 第4章 高麗時代
- 第5章 朝鮮前期
- 第6章 朝鮮後期

- 第7章 日帝強占期
- 第8章 政 治
- 第9章 行 政
- 第10章 產業·經濟
- 第11章 社 會
- 第12章 文 化

第一篇 自然的基礎



大邱直轄市 地形模型(1:50,000)

- 第1章 位置와 地理的 特性
- 第2章 地 質
- 第3章 地 形
- 第4章 氣 候
- 第5章 土壤・植生

和(35°52'N), 東京(35°41'N), 福井(36°03'N), 중국의 蘭州(35°55'N), 이란의 테헤란(35°45'N), 모로코의 탕헤르(35°52'N), 미국의 물리(35°45'N)와 녹스빌(35°58'N)등이 있다.

또 대구시와 비슷한 경도상에 위치한 국내 주요도시에는 榮州(128°38'E), 馬山(128°34'E), 昌原(128°41'E), 鎭海(128°40'E), 束草(128°36'E)가 있으나 외국의 경우는 그 예가 없다. 그 외에 경도상 위치와 관련된 것으로는 標準時와 地方時의 時差문제가 있다. 우리나라는 동경 135°의 地方時를 標準時로 삼고 있기 때문에 대구의 경우 표준시는 실제로 大邱地方時((128°36'E 기준)보다 25분 36초 더 빠르다.

II. 關係的 位置

1. 境 域

경상북도의 중남부에 위치한 대구시는 현재 경북의 1시6군과 접하고 있다. 즉 북으로는 漆谷郡 東明面, 軍威郡 缶溪面, 永川郡 新寧面과 경계하고 동으로는 영천군 淸通面, 慶山郡 瓦村面, 河陽邑, 押梁面과, 동남으로는 慶山市와, 남으로는 慶山郡 南川面과 達城郡 嘉昌面, 서남으로는 達城郡 花園邑, 서부로는 칠곡군 枝川面, 달성군 多斯面, 高靈郡 茶山面과 각기 접하고 있는 것이 그것이다.

이들 접속 시군중에서 대구시와의 接境線이 가장 긴 경우는 達城郡이고 이어 漆谷郡, 慶山郡의 순으로 되어 있으나 대구와 인접 시군과의 交通量은 慶山市와 慶山郡이 가장 많고 이어 達城郡, 漆谷郡의 순이다.

2. 交通位置

1) 京釜軸의 要衝地

서울—大田—大邱—釜山을 연결하는 경부선 철도와 경북고속도로 및 통신망은 우리나라 交通通信의 대동맥이다. 또 그 주변지대는 인구나 2·3차 산업 및 주요 도시가 집중하고 있는 우리나라의 핵심지대로서 경제발전과 지역발전을 선도하는 소위 京釜軸을 형성하고 있다. 국토의 동남부에 치우쳐 있는 대구의 위치는 국토중앙부에 위치한 도시에 비하여 그 공간적 위치가 결코 유리하다고 할 수 없으나 대구가 이 경부축의 요충지를 차지하고 있기 때문에 실제로는 대구는 매우 유리한 교통위치를 점하고 있다. 즉 대구는 水原, 大田, 龜尾, 浦項, 蔚山 등을 비롯한 京釜軸상의 19개 市部都市와 龍仁, 華城, 沃川, 永川, 慶州군 등을 포함하는

13개 郡部地域과의 接近性이 양호할 뿐만 아니라 경부축의 兩端에 있는 우리나라 2대 도시, 서울과 부산과도 각기 3~4시간과, 1~1.5시간으로 連繫될 수 있는 유리한 교통위치에 있는 것이 그것이다. 다만 최근 교통의 革新的 발달에 따라 비교적 근거리의 위치에 위치한 대구-부산간에 세력경쟁이 격화되어 가고 있는 것은 상대적으로 불리한 위치에 있는 대구로 보아서는 문제가 되지 않을 수 없다.

2) 嶺南地方 內陸交通의 最大 結節地

비록 현재는 4개의 행정지역으로 크게 구분되어 있으나 영남지방은 역사적으로 하나의 큰 생활권을 형성하고 있었다. 대구는 이러한 영남지방의 幾何學的 중심에 위치하므로서 일찍부터 영남생활권의 중심으로 발달하여 왔다. 대구를 중심으로 북으로는 安東街道, 서로는 星州街道, 남으로는 玄風街道, 淸道街道(舊 京釜街道), 동으로는 慶州街道가 派出하고 있는 것이 그것이다.

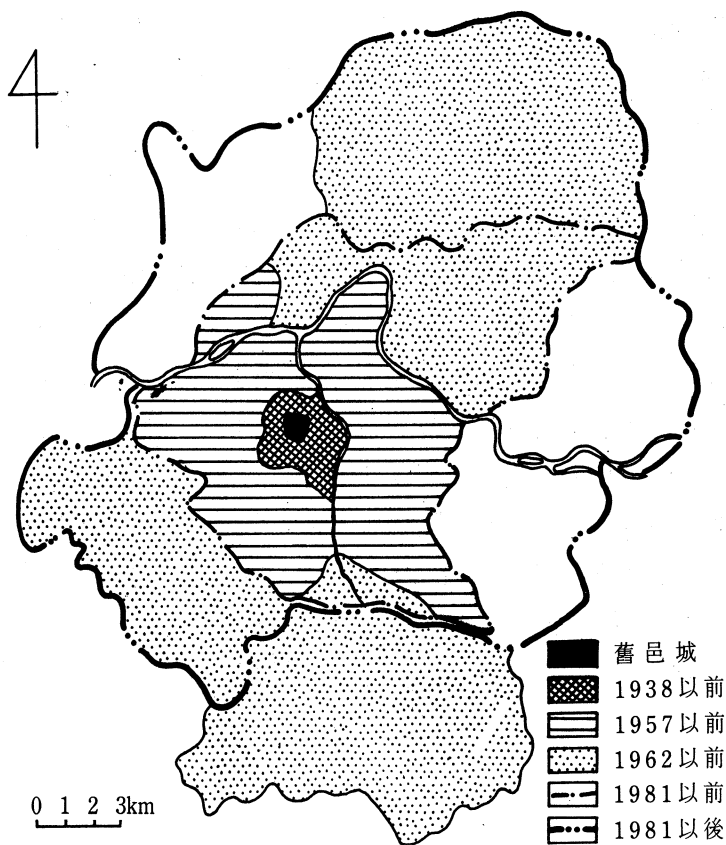
또 이들 舊街道를 기반으로하여 현재 大邱에서 軍威·安東방면, 漆谷·尙州방면, 倭館·金泉방면, 星州·茂朱방면, 高靈·居昌방면, 達城·昌寧방면, 慶山·淸道방면, 永川·慶州방면의 8개 國道가 輻輳하고 여기에 경부선 및 중앙선 철도와 경부 고속도로, 구마 고속도로, 88올림픽 고속도로, 중앙고속도로가 첨가되어 거의 완벽한 교통체계를 형성함으로써 경북지방은 물론 경남의 일부지역을 대구의 勢力圈에 두고 있다. 특히 대구는, 그 주 勢力圈인, 경북의 3대 人口集中地帶가 합치는 위치에 해당하므로 생활권의 대중심지로서 매우 유리한 위치를 점하고 있다. 즉 대구는 ① 倭館-龜尾-金泉-尙州-店村-聞慶에 이르는 서북부 人口集中帶, ② 慶山-榮州-慶州-浦項에 이르는 동부 人口集中帶 및 그 중간의 ③ 軍威-義城-安東-榮州의 중앙부 人口集中帶가 합치는 장소에 위치하고 있어 경북도민과의 접근성이 매우 양호한 것이 그것이다. 이러한 영남지방 내륙교통의 최대 結節地로서의 기능이 과거 및 현재 대구시의 도시발전의 基盤이다.

第2節 市域의 變遷

1914년 대구에 府制가 실시된 이래 대구의 시역면적은 몇차례의 확대, 축소과정을 겪어 현재 455.78km²에 이르고 있는데 이 면적규모는 전국 6대 도시중 5위에 해당된다.

대구가 현대도시의 모습을 갖추기 시작한 1914년 당시의 大邱府의 府域面積은 7.6km²로서 舊

城内를 중심으로 그 주변지역(東上面, 西上面)에 국한되어 있었고 府域의 空間形態도 기본적으로 圓形에 가까웠다. 또 1917년에는 달성군의 일부지역(壽城面 鳳德洞과 大明洞 일부)이 편입되어 면적이 9.25km²로 약간 늘어남에 따라 府域도 동남방향으로 신장되었으나 그 형태는 원형의 기본틀을 유지하고 있었다. 그 후 계속 인구가 증가하게 되자 1938년에는 장래 인구 35만의 대구를 목표로 達城郡의 3개 面(壽城, 達西, 城北)을 대구에 편입시켜 府域이 115.68km²로 크게 확대되었는데 이 때에도 府域의 기본 형태는 원형에 근사하였다.



〈圖 1-1〉 大邱市域의 變遷

해방후 최초의 행정구역 개편은 1957년에 있었는데 달성군의 5개 面(公山, 東村, 城西, 月背, 嘉昌)이 새로이 편입되어 市域이 463.19km²로 대폭 확대되었다. 이 면적규모는 당시 서울 特別市 면적(268km²)의 1.7배에 이르는 큰 규모로서 대구시의 역사상 가장 넓었다. 이렇게

넓은 시역을 갖게된 것은, 비록 해방후 海外同胞의 귀국과 6·25동란시의 避難民 定着등에 의한 市域擴大의 필요성을 감안하더라도, 당시의 무리한 정치적 이유로 市域을 필요이상으로 過大하게 확장한 결과였다. 또 이러한 비정상적 市域擴大로 인하여 市域形狀은 지금까지의 정상적 市域擴大過程인 同心圓狀擴大 추세와는 달리 남북방향으로만 伸張된 帶狀擴大의 형태를 취하고 있는 것이 특색이다.

市域의 비정상적 확장의 결과 시역의 대부분이 非都市地域(農村)에 의하여 占有됨으로서 대구의 都市的特性이 상실되었을 뿐만 아니라 都市行政에도 상당한 矛盾과 無理가 따르게 되었다. 이 때문에 1963년 도시행정특성을 강화하는 區制실시와 더불어 약 285km²의 農村地域이 達城郡에 환원됨으로서 대구시의 면적은 178.32km²로 크게 축소되었다. 또 그 결과 시역의 형상도 圓형에 접근하였다.

그러나 1960년대 이후의 경제개발과 농촌인구의 流入으로 대구시의 인구가 급증추세를 취하여 1969년에는 인구가 100만에 이르게 되었다. 또 그후에도 계속 인구가 증가하면서 대구시가 하나의 地方中心都市에서 國家中心都市의 하나로 발전하게 되자 1981년에 直轄市로 승격하게 되었다. 이 直轄市 승격과 더불어 慶山郡(安心邑, 孤山面), 達城郡(月背邑, 城西邑, 公山面), 漆谷郡(漆谷邑)의 일부지역이 편입되어 市域이 455.78km²로 廣域化되어 현재에 이르렀는데 市域의 기본형상도 圓形을 지향하게 되어 正常的 空間擴大過程을 취하고 있다.

다만 현재의 市域은 약 반이 山地나 그린벨트이고 직할시 승격 이후 활발한 도시개발로 주택용지와 공장용지 등이 급속히 확대되면서 可用都市開發用地가 고갈되고 있어 巨大都市로서의 발전에 장애가 되고 있는 것이 문제이다.

第 3 節 大邱市の 地理的 特性

대구시를 다른 도시와 비교하면 도시로서의 공통성을 발견할 수 있는 동시에 대구만의 특수성도 인정할 수 있다. 대구의 특수성은 대구의 고유한 位置的 性格과 밀접한 관련이 있다. 그 중에서 自然的 性格과 관련된 立地特性은 거의 固定的인데 대하여 社會的 性格에 의하여 형성된 立地特性은 시대에 따른 변화가 현저하다.

I. 典型的인 內陸盆地都市

우리나라의 6대 都市중에서 大邱는 大田과 아울러 海안에서 70km이상 떨어져 위치한 內陸都市이다. 國內경제를 기반으로 하는 內需産業이 國民경제의 중심을 이루는 시대에는 內陸都市가 도시발전상 유리하였으나 현재와 같이 國家경제가 海外경제에 의존하는 輸出産業에 기반을 두고 있는 경우에는 産業立地상 內陸都市는 매우 불리하다. 다만 大邱는 이러한 內陸都市의 위치적 不利性을 극복하기 위하여 四通八達한 交通網을 형성함으로써 각 지역과의 接近度를 높이고 있다.

한편 大邱는 地理的으로 大邱盆地에 입지한 盆地都市이다. 盆地가 발달한 우리나라에서는 도시의 대부분이 盆地에 위치하고 있으므로 盆地都市는 대구만의 특성은 아니다. 그러나 大邱盆地는 그 규모나 형태면에서 우리나라의 전형적인 盆地에 속한다. 또 盆地내를 貫流하는 洛東江과 그 支流 琴湖江이 형성한 平地나 丘陵性 緩斜地가 盆地床에 넓게 전개되어 있어 大都市로 발전하는데 好適한 地形의 基盤을 구비하고 있다.

그러나 이러한 盆地地形은 1970년대 이후의 대구시의 급속한 도시화에 따른 都市空間의 擴大에 상당한 制約과 歪曲을 초래하였다. 이 결과 종래 盆地内에서 圓形的 擴大과정을 취하던 市街地의 發展형태가 동부 및 서남방향으로 트인 盆地의 형상을 따라 盆地外廓으로 진출하게 되면서 동서방향의 帶狀的 擴大를 취하게 되었다. 이러한 東西指向의 시가지 확장으로 大邱-慶山間에는 시가지가 거의 연속된 連擔都市(conurbation)가 형성중에 있다.

內陸盆地로서의 대구의 가장 뚜렷한 자연적 특성은 후술하는 바와 같이 현저한 內陸氣候로 인한 여름철의 酷熱한 더위이다. 그외에도 대구는 同緯度의 다른 지방에 비하여 降水量이 상당히 적을 뿐만 아니라 南韓 제1의 寡雨都市로 알려져 있으며 이와 관련하여 먼지도 많다. 또 東西로 열린 盆地의 특성에 따라 西風이 탁월하나 전반적으로 氣流의 水平移動이 방해를 받아 大氣汚染의 가능성도 크다.

II. 南韓의 暑極都市

대구시의 가장 특색있는 자연적 특성은 전국적으로 널리 알려진 대로 우리나라에서 가장 더운 소위 暑極都市라는 사실이다. 실제로 대구의 8월 平均氣溫(26.3℃)과 平均最高氣溫(31.3℃)이 이것을 증명하고 있다. 이러한 더위는 기본적으로 대구의 고유한 위치적 성격에서 연유된 것이다. 즉 대구는 우리나라에서는 비교적 低緯度에 위치한 內陸盆地이고 또 盆地床의

平均高度도 비교적 낮다. 이 때문에 여름철에 盆地床이나 盆地斜面에서 발생하는 많은 輻射熱이 외부로 쉽게 빠져나가지 못하고 더위를 식혀줄 비의 頻度나 양도 적기 때문이다.

그러나 대구의 한 여름이 體感上 얼마나 더운가는 단순히 8월의 기온 비교만으로는 실감이 나지 않는다. 酷熱하는 太陽에 의하여 달구어진 都心の 빌딩이 뿜어대는 후끈한 열기가 텅텅한 먼지와 뒤섞여 바람 한점 없는 都心の 아스팔트를 녹일때 시가지 전체가 汗蒸湯이나 뜨거운 가마솥으로 변한다. 이러한 酷熱한 대구의 더위를 外國에서는 “날아가던 파리조차 지쳐 떨어지는 더위”로 표현하고 있다. 大邱市民의 특유한 氣質도 이러한 대구의 숨막히는 여름더위와 無關하지는 않다.

Ⅲ. 韓國 纖維工業의 메카

대구는 우리나라 纖維工業의 메카로 국내외에 널리 알려져 있을 만큼 섬유공업이 特화된 都市이다. 이것 역시 기본적으로 대구의 고유한 위치가 나타내는 시대적 산물이다.

영남지방은 일찍부터 우리나라의 養蠶과 棉花生産의 중심지였으므로 영남의 중심지인 대구가 이들을 기반으로 섬유공업이 발달할 수 있는 立地條件들을 잘 구비하고 있는것은 당연하다. 또 日帝時代에는 이러한 資源의 기반외에도 低廉豊富한 영남지방의 女性勞動力과 廣大한 消費市場을 배경으로 당시 영남내륙에서는 유일하게 工業立地條件을 갖춘 대구에 근대적 섬유공업이 발달하였다. 또 2차대전후의 衣服需要와 6.25동란의 戰災謀免, 外援에 의한 施設擴充, 西門市場의 탁월한 都賣機能등이 대구 섬유공업의 급속한 발달을 촉진하였다. 그러나 대구 섬유공업의 비약적 발전계기는 1960년대 초의 섬유 主宗의 輸出政策에서 찾아 볼 수 있으며 이 시기부터 대구가 “섬유공업의 메카”로 불리워지게 되었다. 다른 도시에 대하여 배타적, 독보적으로 섬유공업 관련 業體와 技術, 勞動力이 集積되어 있는 대구의 특수한 立地條件 즉 위치적 성격이 대구로 하여금 정부의 집중적 지원을 받게한 契機이다.

비록 1960년대 후반부터 他都市의 섬유공업 발달로 전국 섬유공업에 있어서의 대구의 지위가 상대적으로 저하되었으나 섬유공업은 아직도 대구에서 事業體數, 從業員數, 生産額, 附加價值, 輸出額에 있어서 탁월한 비중을 점하고 있다. 이 때문에 대구의 代表産業으로서의 섬유공업이 地域經濟와 地域社會에 미치는 영향은 절대적이다. 더구나 重工業과는 달리 原料나 製品의 輸送費 부담이 적고 원료의 損失率이 적은 섬유공업은 대구와 같은 내륙에 위치한 공업도시에 立地上 가장 알맞는 산업이므로 과거나 현재는 물론 미래에도 섬유공업은

대구의 基幹産業으로 남아있을 것이 확실하다.

이러한 섬유공업 도시로서의 성격을 반영하여 대구에는 전국적 규모의 纖維機械工業이 발달하고 있음은 물론이고 纖維技術振興院, 纖維技術大學(예정), 전국 유일의 染色工學科(慶北大), 纖維會館, 각종 纖維관련 團體, 섬유아가씨 선발(매년 10월), 섬유전문잡지 발행등의 여러 기관과 조직, 시설, 행사, 출판물등이 있으며 纖維工業都市 市民으로서의 대구시민의 肯攄와 關心도 대단하다.

IV. 東南經濟圈과 環東海經濟圈의 據點都市

嶺南의 空間中心에 위치한 대구는 일찍부터 영남지방의 交通要地로서 뿐만 아니라 洛東江과 琴湖江의 合流地點에 위치하여 영남내륙의 생산중심지역을 背後地로 삼고 있기 때문에 대도시로 발전할 수 있는 地理的基盤을 구비하고 있다. 이 때문에 대구는 영남의 政治, 經濟, 交通, 教育, 文化의 중심지로서 성장해 왔으며 현재도 거대한 都市基盤과 工業基盤을 이용하여 그 도시 勢力圈이 경북 일원을 넘어 광범한 지역에 미치고 있다. 특히 1970년대 이후의 급속한 산업화와 더불어 영남지방이 東南部 經濟圈을 형성하면서 대구는 이 東南經濟圈의 中心位置를 이용하여 纖維工業 一邊倒의 産業構造에서 벗어나 보다 높은 차원의 中心地로서 발전을 하게 되었다. 國道외에 京釜고속도로를 비롯한 邱馬고속도로, 88올림픽 고속도로, 中部고속도로가 대구를 중심으로 四方으로 파출하여 내륙 제1의 高速道路網 體系를 형성하게 되면서 서북으로는 龜尾, 金泉, 북으로는 安東, 榮州, 남으로는 馬山, 昌原, 동남으로는 慶州, 浦項, 蔚山, 서남으로는 光州가 대구의 勢力圈으로 흡수되게 되었다. 이 결과 대구는 기존 特化産業의 商圈擴大는 물론 집중된 中樞管理機能과 高等教育機關, 전국적으로 특화된 機械工業基盤, 대규모의 유통및 서비스 기능, 풍부한 人的資源을 활용하여 背後都市에 대한 支援基地와 東南部の 國土 및 地域開發의 據點都市는 물론 다가오는 國際化時代에 있어서, 浦項과 連繫하여, 環東海經濟圈의 據點都市로서의 기능을 효과적으로 수행할 수 있는 立地條件을 갖추게 되었다.

이와 같이 특색있는 地理的 性格 즉, 交通結節地로서의 便利한 地域間 連繫機能과 거대한 都市基盤 및 工業基盤을 활용하여 大邱는 尖端産業을 비롯한 機械組立工業, 部品工業, 각종 企業 서서비스業, 研究所, 流通産業, 金融業 등을 발전시키므로써 産業支援基地와 開發據點都市 및 尖端産業 都市로 발전중에 있다.

第2章 地 質

第1節 嶺南地方의 地質構造

大邱地域은 우리나라의 한 지질단위인 慶尙盆地내에 위치하고 있으므로 먼저 경상분지의 지질구조를 개략적으로 살펴보는것이 대구지역 지질을 이해하는데 도움이 될 것으로 생각된다.

영남지방은 小白山脈이 북·서를 두르고 있는 한 構造盆地로 우리나라 타지역에서는 흔하지 않는 中生代 地層이 넓게 분포해 있는 지질구조지역이다. 영남지역의 지질은 몇개의 地質構造區로 나누어 지는데, 서쪽에서 부터 小白山地塊, 慶尙盆地, 浦項盆地가 그것이며, 동쪽으로 갈수록 지질시대가 새롭다.

小白山地塊는 洛東江 본류의 서쪽과 북쪽에 소백산맥을 주축으로 대상 분포하고 있으며, 구성 암석은 캄브리아기(약 6억년 전)이전에 형성된 花崗片麻岩과 變成堆積岩이 주를 이루고 뒤에(취라기, 약 1.8억-1.4억년전) 이 지층을 貫入한 花崗岩(大寶花崗岩)이 섬처럼 분포하고 있다. 이 地塊는 蓋馬地塊, 京畿地塊와 함께 우리나라에서 가장 오래된 지괴이며, 중국의 南中國卓狀地와 연결되어 있다.¹⁾

慶尙盆地는 낙동강 본류의 동쪽지역의 거의 대부분을 차지하고 日本 九州의 북부, 本州의 북서부까지 연결되는 한 지질구조구이다. 이 분지의 분포 암석은 모두 中生代 白堊紀(1.3억-0.6억년전)에 형성되었고, 陸水成 堆積岩(新洞層群, 河陽層群)과 이 위를 덮는 火山岩(楡川層群)및 이를 관입한 화강암(佛國寺花崗岩)으로 이루어졌다. 영남분지에 널리 분포해 있는 이들 白堊系는 1903년 慶尙層이라 명명되었고(小藤文次郎),²⁾ 그후 얼마동안 上部大同系라 했으며, 1940년을 전후하여 慶尙系로 호칭되었다. 이 慶尙系는 立岩巖(1929)³⁾에 의해서 서에서 부터 洛東統, 新羅統, 佛國寺統으로 세분되고 이를 다시 표1과 같이 11개 層 및 岩群으로 다시 세분되었다. 최근의 국내 연구(章基弘, 1977)⁴⁾에 의하여 이 분류는 일부

1) Sang Man Lee, "The tectonic setting of Korea, with relation to plate tectonic," *Jour. of Geol. Soci. Korea*, Vol. 10, 1974, pp. 25~26.

2) M. Koto, "An orographic sketch of Korea," *Jour. Sci. Imp. Univ. Tokyo*, V.19 1903.

3) 立岩巖, <1/5萬 地質圖, 慶州, 永川, 大邱, 倭館圖幅 說明書>, 1929, p.1.

4) 章基弘, <慶尙盆地 上部中生界의 層序堆積 및 地質構造> 《지질학회지》 13-2, 1977, p. 81.

수정되어 慶尙系를 慶尙累層群이라 하고 하부에서 부터 新洞層群, 河陽層群, 楡川層群, 佛國寺貫入岩으로 구분하고 이를 다시 9개 層 및 岩群으로 세분하였다.

〈表 2-1〉 慶尙累層群의 區分比較

立 岩(1929) 大邱~慶州間			章基弘(1975) 慶尙盆地 南西部		
慶 尙 系	佛 寺 國 統	佛 國 寺 花 崗 岩	佛 貫 群 國 入 寺 岩	貫 入 岩 群	
	新	朱 砂 山 玢 岩	楡 層 川 群	火 山 岩 群	
	羅	乾 川 里 層	河	鎭 東 層	
	統	採 藥 山 玢 岩 大 邱 層 鶴 峯 玢 岩 新 羅 礫 岩	陽 層 群	咸 安 層 新 羅 礫 岩 漆 谷 層	
系	洛 東 統	漆 谷 層 晉 州 層 霞 山 洞 層 洛 東 層	新 洞 層 群	晉 州 層 霞 山 洞 層 洛 東 層	

新洞層群은 경상누층군의 최하부층으로 낙동강 본류를 연하여 남북으로 길게 형성되어 있다. 이 층이 형성될 때는 경상분지에서 화산활동이 거의 없었으며, 礫岩을 주로한 碎屑性퇴적암으로 구성되어 있다. 본 층은 하부로부터 洛東層, 霞山洞層, 晉州層으로 구분된다.

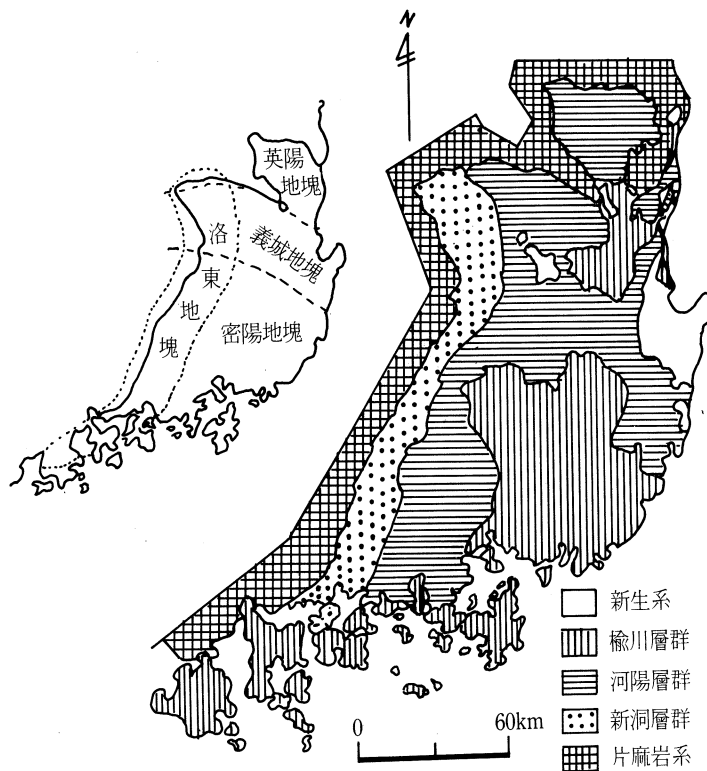
河陽層群은 신동층군 동쪽에 분포하며, 경상분지에서 가장 넓은 면적을 차지하고 砂岩과 頁岩으로 주로 이루어져 있다. 이 층의 퇴적 당시 경상분지는 英陽盆地, 義城盆地, 密陽盆地로 나누어진 지반 위에서 퇴적되었고 부분적인 화산활동이 일어나고 있었다. 이 층은 다시 하부로 부터 漆谷層, 新羅礫岩, 咸安層, 鎭東層으로 세분된다.

楡川層群은 경상누층군의 최상부층이며 이때는 화산활동이 활발하여 암석은 酸性 및 中性 火山岩과 凝灰岩이 주를 이루고 부분적으로 堆積岩이 협재한다. 靑松郡 일대와

淸道郡, 密陽郡일대에 넓게 분포하고 있다.

佛國寺貫入岩群은 경상누층군이 유천층군까지 퇴적된 후에 이 누층군을 뚫고 관입한 深成岩, 半深成岩으로 黑雲母花崗岩과 石英斑岩이 대부분이다. 이 불국사관입암의 관입시기는 대부분이 백악기 말이지만 부분적으로 新生代 초기의 것도 있음이 K-Ar법 절대년대측정에 의하여 밝혀진바 있다(李倫鍾, 1980).⁵⁾ 불국사 주변에 많이 분포하고 있어서 불국사통이라고 했지만 八公山 主山體를 이루는 암석도 이것이며, 太白山脈 中间에도 섬처럼 많이 분포하고 있다.

浦項盆地는 新生代 第三紀 中新世(2천5백만년-1천3백만년 전)에 퇴적된 퇴적암으로 이루어져 있다. 하부의 陽北層群은 礫岩으로된 陸成層이며, 상부의 延日層群은 砂岩, 頁岩으로



〈圖 2-1〉 慶尙盆地의 地質略圖(章基弘 1977)

5) 李倫鍾, 〈韓國 東南部 慶尙盆地 南部地域의 花崗岩質岩類(その 1, 一般地質と花崗岩類のK-Ar年代)〉, 《岩石鑛床床學會誌》日本岩鑛學會, 75-4, 1980, pp. 105~116.

된 海成層이다. 포항을 중심으로한 영일군의 동부지역에 좁게 분포하고 있으며, 蔚山灣에서 盈德郡 寧海에 이르는 해안지역에서 단편적인 분포가 보인다.

大邱市域은 慶尙盆地의 중앙에 위치하고 있어서 경상누층군의 다양한 지층이 본 지역내에 분포하고 있다. 즉 서부 일부에 신동층군이 나타나고, 중앙저지에는 하양층군으로 이루어져 가장 넓은 면적을 이루고, 남부산지는 유천층군이 탁월하며, 북부 팔공산은 불국사화강암으로 이루어져 있다.

第2節 大邱市域의 地質

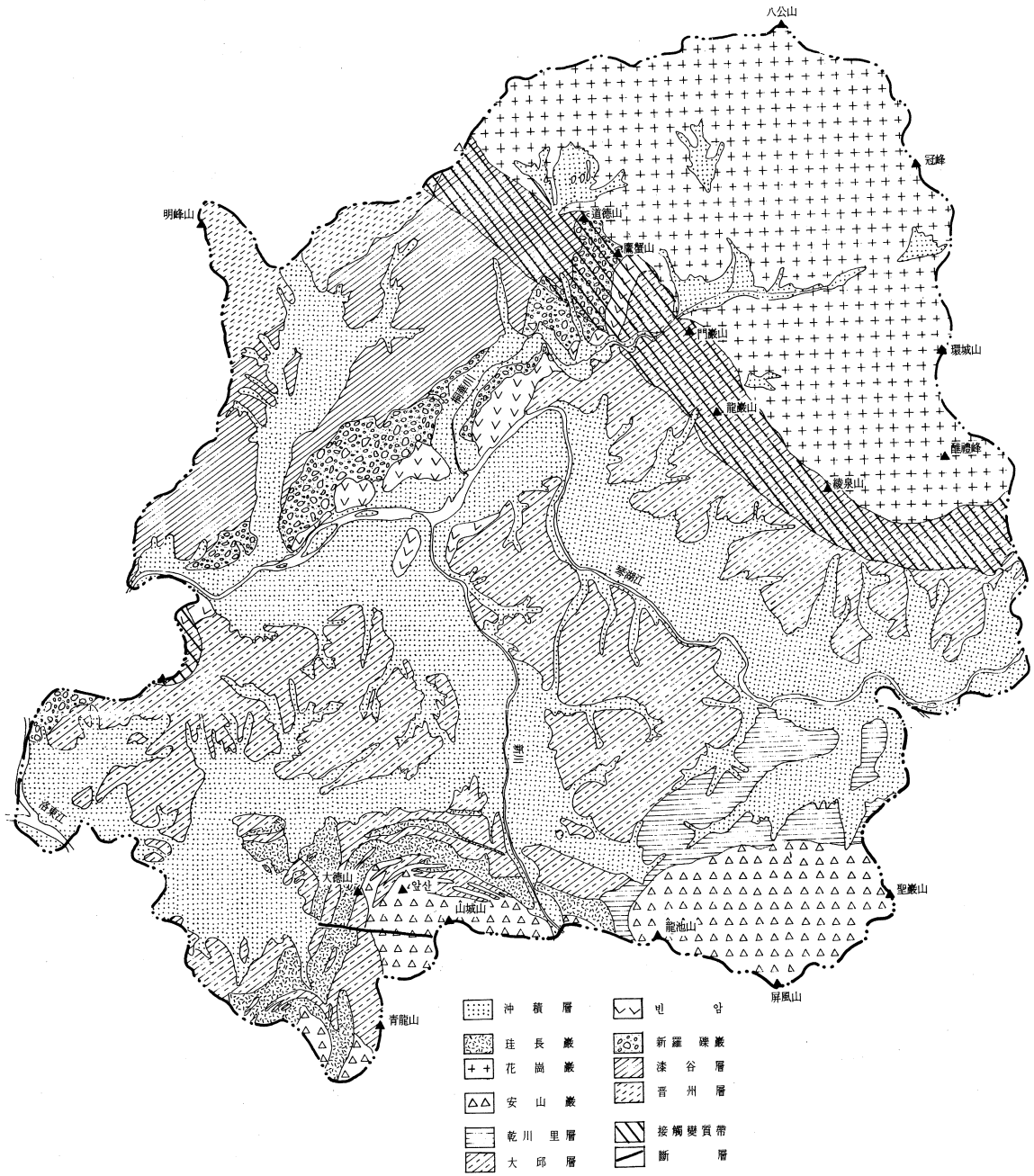
대구지역의 지질을 나타낸 것이 (圖 2-2)이다. 지질 도폭간에 지층명칭이 상이하게 나타나고 있는데 이를 통일하기 위하여 立岩巖(1929)의 대구도폭이 대구지역의 대부분을 차지하기 때문에 이 도폭의 지층명칭을 따랐다.

대구지역은 (1)중앙의 수성퇴적암 지대, (2)남부의 화산암 지대, (3)북동부의 화강암 관입지대로 나누어지며, 지층의 형성시기도 이 순서로 이루어졌다.

I. 中央의 水成堆積岩 地帶

이 지대는 대구지역의 북서부 漆谷에서 부터 동쪽 安心에 이르기까지 琴湖江을 연하여 中央低地를 형성하고 있으며 가장 넓은 면적을 차지한다. 북서쪽에서 부터 晋州層, 漆谷層, 新羅礫岩層, 鶴峰빈岩層, 大邱層, 乾川里層이 차례로 북동-남서 방향으로 대상배열하고 있고 지층은 남동쪽으로 대략 10도-20도 경사져 있다. 북서쪽이 오래되었고 남동쪽으로 가면서 새로운 지층이다. 이중 진주층과 칠곡층은 하부 경상계(洛東統)이고, 그 나머지는 상부 경상계(新羅統)이다.

晋州層; 이 층은 대구지역의 북서 가장자리 明峯山 일대에 분포하며, 갈색 및 암갈색의 礫質砂岩과 암회색의 砂質 및 炭質의 頁岩으로 이루어져 있다. 확실한 층상구조를 이루고 漣痕이 있으며, 羊齒類 및 松柏類 식물화석이 분포한다. 이 층의 상부에는 凝灰岩의 얇은 층(최대 20cm 두께)이 狹在됨이 특징이며, 층후는 약 1,200m이다.



〈圖 2-2〉

大邱市域의 地質

漆谷層 ; 이 층은 漆谷의 八溪川 연변의 道南洞-漆谷-泗水洞에 이르는 지역에 분포하며 자색 頁岩으로 주로 이루어져 있지만 윗층으로 갈수록 礫을 포함하는 율이 높아져 다음에 나타날 新羅礫岩層으로 접이되고 있음을 알 수 있다. 층후는 약 950m이다.

新羅礫岩層 ; 이 층은 岩蟹山-中大山-函芝山-臥龍山 서반-弓山(城西)에 이르는 지역에 분포하며, 대부분이 礫岩이고, 부분적으로 砂岩을 포함하며, 層理가 분명하지 않고 층후 약 200m이다. 礫은 花崗片麻岩의 礫이 대부분이며 圓礫이다. 이 층의 분포지역이 그 주변보다 약간 높은 지형을 보이고 있다.

鶴峰빈岩層 ; 鷹峰-鶴峰-助也洞-臥龍山 중부로 연결되며 琴湖江을 건너서 砧山, 연암산도 이 지층이다. 助也洞 부근에서 폭이 가장 넓고 층후도 약 250m에 이르지만 남쪽으로 갈수록 폭은 점점 좁아지고 두께는 얇어져서 臥龍山 보다 남쪽에서는 나타나지 않는다. 火山性 噴出岩으로 빈암과 凝灰岩이 互層을 이루며, 부분적으로 사암이 협재한다.

大邱層 ; 城西에서 安心까지 넓은 면적에 걸쳐 분포하며 대구지역 중에서 시가지가 주로 형성된 부분과 거의 일치한다. 황갈색 사암과 응회암 泥岩의 호층으로 이루어져 있으며, 엷은 회색 석회암이 협재하기도 한다. 乾裂과 漣痕이 간혹 나타나는 것으로 보아 가끔 말라버리기도 하는 얇은 수중환경에서 퇴적된것으로 보인다. 이 층의 層厚는 약 2000m에 이른다. 이 지층의 분포지역이 沖積平野를 제외하고는 평균고도가 가장 낮은 구릉지를 이루고 있다.

乾川里層 ; 이 층은 대구지역 남동쪽 孤山골 주변에 주로 분포하고 있으며 암회색 泥岩과 砂岩으로 이루어져 있다. 엷은 회색의 石灰岩層이 협재하기도 한다.

II. 南部의 火山岩 地帶

대구지역의 남쪽 경계를 이루는 산지는 新川을 경계로 동쪽은 龍池山塊이고, 서쪽은 앞산괴이다. 이 두 산괴는 중앙저지의 지질과는 다르게 화산암지대이며 이것은 남쪽의 淸道郡, 密陽郡으로 계속되는 소위 楡川層群 분포의 북쪽 가장 자리에 해당된다.

용지산지괴는 巴洞쪽의 法泥山쪽을 제외하면 모두가 安山岩으로 이루어져 있다. 그러나 앞산괴 쪽은 앞산, 山城山이 솟아있는 높은 부분은 安山岩質角礫岩으로 되어있고, 그 북부 산록부와 巴洞의 法泥山 일대, 辰泉川상류부 일대에는 珪長岩이 관입하면서 大邱層의 일부를 捕獲한 지질 구조를 형성하고 있다.

이들 각각의 형성 순서는 安山岩, 安山岩質角礫岩, 玢長岩의 순이다. 여기서 앞의 두 암석은 榆川層群에 해당되며 噴出岩이다. 그러나 玢長岩은 佛國寺貫入岩類의 하나로 大邱層과 榆川層을 뚫고 貫入했다.

III. 北東部の 花崗岩 貫入地帶

대구지역의 북동부 지역 및 慶山, 永川, 軍威郡지역에 걸쳐있는 八公山塊는 白堊紀 말과 第三紀 초에 걸쳐서 일어난 대규모의 화강암 관입으로 이루어진 것이다. 이 화강암이 관입을 할때 그 주위의 慶尙系 堆積岩도 熱接觸變質을 받아 接觸變質硬化帶를 형성하고 있다.

일반적으로 열접촉변질대는 화학적 풍화나 물에 대한 침식에 매우 강한 바위로 변질되기 때문에 침식에 저항하여 관입된 화강암 지대를 둘러싼 環狀山脈을 형성한다. 그러나 중앙의 화강암은 심성암이기 때문에 화학적 기계적 풍화에 약하여 오랫동안 침식을 받으면 결국 중앙부분의 화강암이 모두 각여나가고 접촉변질경화대가 外輪山이 되어 盆地가 된다. 이와같은 지형을 보이는 것이 대구지역 서쪽 경계에 위치한 臥龍山의 경우이다.

八公山塊에는 노출된 화강암 지대가 장경 20km, 단경 12km 규모의 타원형지대를 형성하고 이를 둘러싼 접촉변질경화대는 1-2km폭으로 이루어져있다. 팔공산은 중앙의 화강암체가 너무크기때문에 아직도 중앙의 화강암 그자체가 높은 山體를 형성하고 있고 주변 접촉변질경화대는 이를 둘러싼 環狀山脈을 형성하고 있다.

IV. 河川 沿邊의 第四紀層

第四紀層은 하천을 연하여 운반, 퇴적된 洪積層, 沖積層으로 基盤層을 不整合으로 얹게 덮고 있으며 아직 固結되지 않은 堆積層이다. 이 중에서 洪積層은 현재 하천수가 도달되지 않은 높이의 古扇狀地, 河岸段丘를 형성하고 있고, 沖積層은 지금도 대홍수시에는 하천수가 범람되는 沖積低地를 형성하고 있다. 대구지역의 第四紀層의 대부분은 충적층이다.

沖積層의 분포는 琴湖江과 新川을 연하여 넓게 분포하고 있고 漆谷의 八溪川과 月背의 辰泉川을 연하여서도 상당히 넓게 분포하고 있다.

第3節 大邱의 地史

앞에서 본 바와 같이 대구지역에 분포하는 노출된 지질들은 중생대 白堊紀에 형성된 것(慶尙累層群)과 第四紀에 형성된 것(洪積層, 沖積層)으로 이루어져 있다. 이들 지질들의 특성을 기초로 대구지역의 지질환경의 변화를 살펴보기로 한다.

I. 白堊紀 以前の 오랜 乾陸狀態

대구지역에서 慶尙系 하부에 어떤 基盤岩이 형성되어 있는지는 밝혀지지 않았지만 嶺南地方 전역을 두고 살펴볼때 이 慶尙系는 선캄브리아계(6억년이전에 형성된지층)를 不整合으로 덮고 있으며 그 사이에 古生代 및 中生代 전반(쥐라기-삼첩기)의 지질을 缺하고 있다. 따라서 이 지역은 古生代 및 中生代 전반기 동안 陸化되어져서 침식만을 계속 받아왔을 것이 예상된다.

II. 水中 堆積

陸化된 상태에서 침식만을 받아오던 지역에 白堊紀에 이르러 造盆地運動이 일어나 堆積環境으로 바뀌어졌다. 백악기에는 범세계적으로 심한 海侵이 일어났다. 그러나 慶尙系지층에서 海棲 동, 식물 화석이 전연 발견되지 않는 것으로 보아 이때 이 지역이 海域이 된것은 아니며 중앙에 넓은 湖水를 갖고 있고 북쪽과 서쪽에 높은 산지로 이루어진 內陸盆地였을 것으로 추정된다.

이 造盆地運動은 현재 慶尙系 분포의 서쪽 경계(대략 洛東江 본류선)와 북쪽 경계(安東 남쪽)를 따라 斷層運動이 일어나 서쪽과 북쪽이 들러 높은 산지를 형성하고, 이 산지로 부터 남,동쪽으로 흘러내린 河川이 산지를 연하여서는 扇狀地를 형성하고 또 그 하류에 氾濫原을 만들었으며 마지막으로 湖水에 들어가 湖底堆積層을 이루었다.

이 內陸盆地 구조는 洛東統이 퇴적될때에는 남북으로 길게 형성된 비교적 좁은 폭의 것이었으나 新羅統이 퇴적될 당시는 盆地底의 침강운동이 일어나 초기 단층선의 범위를 넘어서 까지 확대되어 嶺南地方의 대부분 및 全羅道 및 忠淸道 일부지역까지 확대되었다.

이상에서 본바와 같은 造盆地운동 및 퇴적환경과 관련시켜서 대구지역에 분포하고 있는 퇴적암들의 퇴적당시의 환경을 유추해보면 다음과 같다.

대구지역의 북서쪽 가장자리 일부에 분포해있는 晉州層이 대구지역에 분포한 암석중에서는 가장 오래된 암석이며 洛東谷盆 시기의 湖底堆積物이다. 따라서 이 시기의 대구지역은 내륙호수 상태였다.

臥龍山에서 八公山の 鷹峰에 이르는 북서-남동방향으로 분포해 있는 新羅礫岩層은 제2 造盆地運動 초기에 형성된 扇狀地性 퇴적환경에서 형성된 지층이다. 晉州層과 新羅礫岩 사이에 분포하는 漆谷層은 이들 두 대조적인 환경의 점이기에 형성되었다.

현재 대구시 시가지의 대부분을 덮고 있는 大邱層은 제2 造盆地運動에 의하여 확장된 내륙호의 가장자리에 위치하는 퇴적환경에서 형성된 지층으로 때로는 물 밑에 잠기고 때로는 노출되어 乾裂상태에 이르는 환경을 반복하는 상태에서 형성되었다.

이보다 더 동쪽 즉 池山洞-時至洞 일대에 분포해 있는 乾川里層은 동쪽으로 慶州地方까지 계속되는 넓은 분포지역을 이루고 있으며 완전히 호저퇴적 환경에서 퇴적된 것이다.

砧山, 東邊洞 일대에 분포해 있는 鶴峰玢岩은 新羅礫岩層을 관입한 半深成岩이다.

Ⅲ. 심한 火山 噴出과 水中 堆積

河陽層群이 퇴적될 당시도 영남분지에는 부분적으로 화산분출이 있어서 퇴적층 속에 화산재를 추적할 수 있다. 그러나 이때까지는 수성퇴적암이 주이고, 화산성 碎屑物은 극히 일부에 지나지 않는다. 그러나 백악기 말에 이르러 각지에서 심한 화산 분출이 일어나 이번에는 암석의 주성분이 熔岩 혹은 火山 碎屑岩이고 부분적으로 수성퇴적암이 혼재된 층상을 형성하게 되었다. 이와같이 형성된 지층을 楡川層群이라 하고 密陽郡, 淸道郡 일대에 넓게 발달해있다.

대구지역에서는 南部山地를 형성하는 龍地山塊, 앞산괴, 最頂山, 琵琶山塊들을 형성하고 있는 지층들이 이렇게 형성되었다.

Ⅳ. 花崗岩의 貫入

慶尙累層群이 楡川層群까지 퇴적된 후에 경상분지에는 광대한 지역에 걸쳐 화강암이 관입하였다. 대구지역에서 이때 관입한 화강암이 八公山과 臥龍山에 분포하며 관입을 할 때 주변의 퇴적암을 熱接觸變質시켜 독특한 지형이 형성되어 있다. 또한 이 운동(佛國寺運動)에 의하여 지층이 많이 變位되었고 斷層作用을 받기도 했다.

V. 白堊紀 以後의 安定

백악기 이후 현재까지 대구주변 지역은 완만한 융기를 계속하면서 乾陸상태로 오늘에 이르렀다. 따라서 第三紀層(약 6,000만년전-200만년 전에 형성된 지층)이 분포하지 않으며, 오랜 침식을 받아 지하 깊숙한 곳에 묻혀 있던 심성암인 화강암이 노출되어 있고, 差別侵蝕의 결과로 대구분지가 형성되었다.

금호강 및 신천과 같은 하천 주변에는 하천이 운반한 퇴적물이 퇴적되어 얇은 충적층이 형성되었다.

第3章 地 形

第1節 地形 概觀

‘大邱盆地’라는 용어는 흔히 사용되고 있지만 그 지형적 범위를 확실히 한 보고는 별로 없다. 따라서 먼저 ‘大邱盆地’라는 지형단위를 고찰해 보기로 한다.

넓은 범위로 대구분지는 동쪽의 琴湖江 流域盆地와 서쪽의 星州郡을 대략 유역으로 하고 있는 白川 流域盆地를 합한 지형단위로 볼 수 있다. 이렇게 보는것은 행정구역상으로 대구시역을 가운데 두고 동쪽에 慶山郡, 永川郡과 서쪽에 達城, 漆谷, 星州郡에 해당되는 이 지역이 완전한 하나의 큰 지형단위를 형성하고 있기 때문이다.

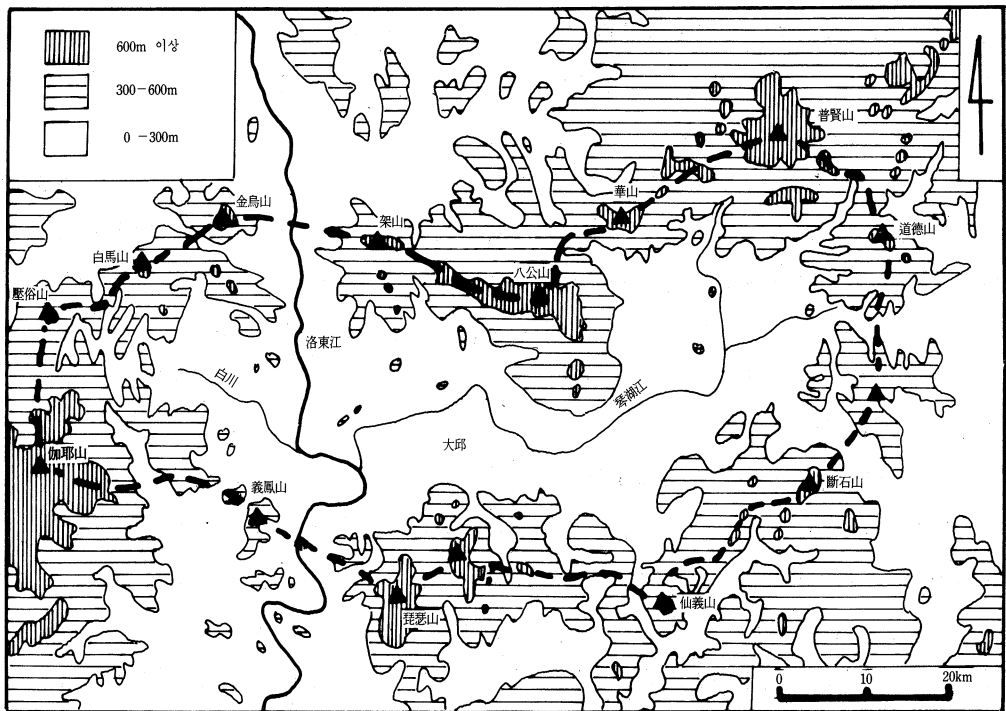
이 분지 주변에는 서쪽에 儀鳳山(535m), 伽耶山(1,430m), 壓俗山(870m), 白馬山(716m), 북쪽에 金烏山(976m), 架山(902m), 八公山(1,192m), 華山(828m), 普賢山(1,124m), 동쪽에 太白山脈과 연결되는 道德山(703m), 武陵山(459m), 龜尾山(594m), 남쪽에 斷石山(827m), 仙義山(756m), 最頂山(915m), 琵琶山(1,084m)등의 고봉이 형성되어 있고, 盆地床은 평균고도 100m 전후의 낮은 丘陵地와 100m이하의 侵蝕低地 및 沖積平野로 연결되어진 완전한 하나의 內陸盆地이다. 이와같은 넓은 범위의 대구분지는 太白山脈 서쪽의 慶尙北道를 金烏山-八公山-普賢山선에 의하여 남북으로 2분할 때 그 남부에 해당되며, 북부는 일반적으로 洛東江上流盆地라 한다.¹⁾

좁은 범위의 대구분지는 남쪽의 琵琶山塊의 북쪽 가장자리에 해당되는 大德山(584m), 앞산(660m), 山城山(653m), 法泥山(334m), 龍池峯(634m)등에 의하여 경계되고 동쪽은 池山洞, 黃金洞, 晚村洞의 동쪽을 연하여 형성된 낮은 東部丘陵地로 池山(211m), 斗里峯(217m), 母峯(150m), 兄弟峯(190m)등의 봉우리가 형성되어 있다. 북동쪽은 八公山塊(425m), 鷹峯(458m), 鷹蟹山(516m), 道德山(660m), 그리고 북서쪽은 도덕산에서 函芝山(284m)에 이르는 낮은 산맥으로 연결되고, 서쪽은 臥龍山(299m)에 의해서 막혀진다. 이렇게 볼 때 좁은 범위의 대구분지는 북쪽에 꼭지점을 두고 남쪽에 밀변을 둔 대략 삼각형의 모양을 하고 있다. 대구시는 이와같은 2중분지 안에 입지하고 있기 때문에 기후가 매우 대륙성이어서 한서의

1) 태백산맥 서쪽의 남부 경북은 대부분 대구분지이지만 남동쪽의 일부는 淸道盆地로 별개의 지형구가 형성되어 있다.

차가 심하며, 또한 보수성이 강한 주민성이 형성된 것이 아닌가 생각해볼 수도 있다.

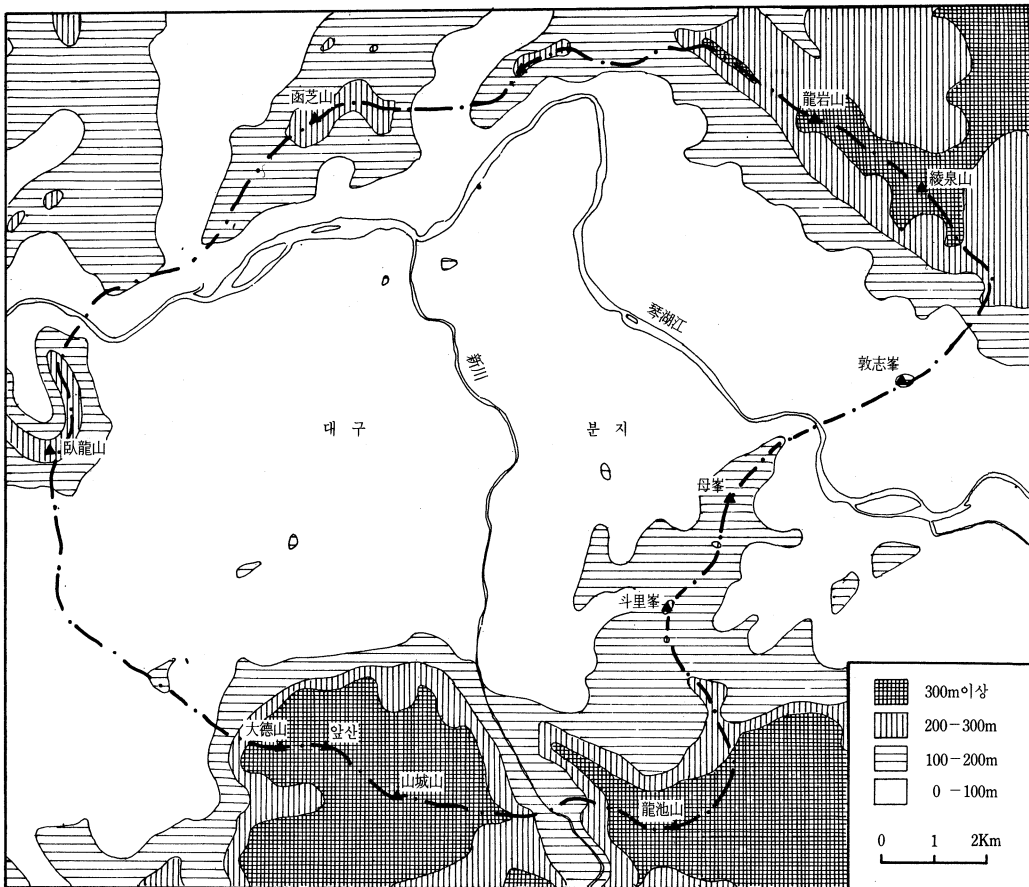
한 분지의 성인은 일반적으로 外因的作用에 의해 형성된 侵蝕盆地와 内因的作用에 의해 형성된 構造盆地로 나눌수 있다. 대구분지를 太白山脈과 小白山脈 사이에 형성되어 있다는 넓은 범위의 규모로 생각하면 태백산맥과 소백산맥을 축으로 하는 地盤隆起가 예상되므로 어느정도의 構造運動도 대구분지 형성에 기여하였다고 할 수 있다. 그러나 앞산, 팔공산이 높고 가운데가 낮은 좁은 분지적 경관은 榮州盆地, 居昌盆地등과 같이 침식작용에 의해 주로 형성된 침식분지 중의 하나이다.



〈圖 3-1〉

大邱盆地(廣意)의 범위

대구지역의 지형은 크게 北部山地, 南部山地, 中央低地로 대별되며, 다음에 이들 각각에 대하여 기술하기로 한다.



〈圖 3-2〉 大邱盆地(狹意)의 범위

第2節 北部山地

북부산지는 대구지역의 북동부에서 북부에 걸쳐서 형성되어 있는 거대한 山塊로 花崗岩質로 되어있고 主山인 八公山塊와 이를 둘러싸고 있는 水成岩의 接觸變質岩으로 된 環狀山脈으로 이루어져 있다.

I. 八公山塊

팔공산괴는 지질에서 언급한 바와 같이 중생대 백악기 말 경상누층군이 퇴적된 후에 이를 뚫고 貫入한 佛國寺 花崗岩으로 이루어진 산괴이다. 관입이 거대한 규모로 일어났으므로 노출된 화강암지질의 부분이 장축(북서-남동) 24km, 단축(북동-남서) 약 11km의 타원형으로 이루어졌다.

화강암은 풍화와 침식에 약한 암석이므로 일반적으로 화강암이 관입한 곳에는 화강암 부분이 더 많이 침식되고 제거되어서 분지 바닥을 형성하고, 화강암에 접한 다른 암석은 열접촉변질을 받아 硬化되기 때문에 침식에 견디어 분지를 둘러싼 주변산지를 형성하고 있는 지형이 우리나라에는 매우 많다. 居昌盆地, 加祚盆地, 榮州盆地 등이 모두 이렇게 형성된 분지들이다. 그러나 팔공산괴는 이와 달리 화강암지질부분이 아직도 주변의 접촉변질을 받은 퇴적암 보다 더 높게 남아 主山體를 형성하고 있는 형태를 보인다. 이와 같은 팔공산의 지형이 타 화강암 관입지역과 다른 지형적 특성을 보이는 것은 다음과 같은 점들에 의한 것으로 해석될 수 있다.

1. 팔공산 화강암은 백악기 말에 관입한 佛國寺統 화강암으로 榮州, 居昌盆地를 이루고 있는 大寶花崗岩(취라기에 관입)보다 더 최근에 과입되었으므로 深層風化가 덜 이루어졌다.
2. 거대한 화강암체가 관입되었으므로 침식이 상당히 진전되었지만 아직도 남아 있는 부분이 많아서 主山體를 형성한다. 그러나 앞으로 수백, 수천만년이 지나면 역시 화강암 분포지가 盆地底가 되고 주변의 접촉변질부가 盆地周邊山地가 되는 地形逆轉현상이 일어날 것이 예상된다.

화강암체 팔공산괴는 安心의 동북쪽 礁禮峯(636m)에서 시작하여 북쪽으로 脈을 이루어 環城山(808m)에 이르고 다시 석불 미륵 여래좌상으로 유명한 冠峯(갯바위, 851.8m)으로 연결된다. 그러나 이 環城山과 冠峯사이에는 이 脈 중에서 가장 낮은 能城고개(약 310m)가 형성되어 있어서 慶山郡 瓦村面에서 대구시 百安洞으로 연결되는 직선 도로가 이고개를 통하고 있다. 이 직선 도로를 연한 저지는 斷層線谷에 해당되는 지형으로 이 斷層線에 대해서는 후술하겠다.

관봉에서 老足峯(886.9m)을 거쳐 東峯에 이르기까지는 대략 북쪽으로 맥이 계속되다가 동봉에서 主峯(1,192m), 西峯을 거쳐 架山에 이르기까지는 거의 東-西의 맥을 이룬다. 山城과 高位平坦面으로 잘 알려져 있는 架山(901m)은 화강암이 아니고 화강암은 가산 바로 옆에까지 계속된다. 관봉에서 가산에 이르기까지가 팔공산의 主分水嶺으로서 약 20km에 달하고 이 부근의

岳溪面)을 관람하기에 편리하도록 되어졌다.

礪禮峯에서 架山까지 화강암으로 된 팔공산 주맥은 마치 대구 시가지 북동쪽에 쳐진 병풍과 같은 형세를 취하고 있다.

II. 環狀山脈

팔공산 화강암체가 熔岩의 상태로 관입하여 지중에서 천천히 식어가는 동안 그 주위에 있던 퇴적암(慶尙累層群)이 熱接觸變質을 받으면서 마치 점토로 만든 그릇을 불에 구우면 陶器가 되는 것처럼 아주 강한 바위로 변질되었고, 이들 접촉변질대의 암석들이 침식에 저항하여 화강암체로 된 팔공산괴를 둘러싼 環狀山脈을 형성하고 있다.

서쪽에서 부터 架山(901m), 道德山(660m), 鷹蟹山(516m), 鷹峯(506.7m), 門岩山(431.4m), 龍岩山(381.5m), 綾泉山(476.2m), 舞鶴山(590m), 鳴馬山(499m), 胎室峯(466m), 시루봉(73m), 春山(655.3m)등이 그것이며, 이들 산지들의 팔공산쪽(안쪽) 사면은 급경사를 이루고 바깥쪽을 향한 사면은 보다 완경사이다.

팔공산에서 발원하여 방사상으로 흐르는 하천들이 이 環狀山脈을 절단하고 지나가는 곳은 어김없이 협곡을 이루고있다. 특히 桐華寺쪽 팔공산 사면에서 발원하여 美垈.百安盆地를 형성하고, 공산담쪽의 접촉 변질대를 협곡을 이루면서 지나는 門岩川(일명 桐華川)은 이 부근에서 嵌入曲流의 형태를 취한다. 화강암으로된 팔공산 주맥과 환상산맥 사이에는 대개 작은 분지들이 형성되어 있는데 앞에서 언급한 美垈.百安盆地, 把溪寺쪽의 中大洞盆地, 架山山城 남문 앞의 箕聖洞盆地, 가산 북쪽의 鷹秋洞盆地, 第二石窟岩이 위치하는 大栗洞盆地, 龍岩川(일명 不老川) 상류의 坪廣洞盆地, 梅余川(일명 栗下川)상류의 梅余盆地등을 들 수 있다.

환상산맥의 외측에는 고도 200-300m의 구릉지로 되어 있는데, 이들은 河陽層群에 속하는 砂岩, 頁岩등의 퇴적암이 접촉변질을 받지 않았기 때문에 침식에 대한 저항이 약해서 낮은 구릉지가 된 것이다.

III. 八公山 斷層

이 단층은 동쪽의 慶山郡 瓦村面 博士洞-陰陽洞-能城고개-대구시의 能城洞-道鶴洞-龍水洞-松亭洞-漆谷郡 東明面 箕聖洞-鶴鳥洞으로 연결되는 동남동-서북서 방향의 단층선

으로 서쪽으로 若木, 龜尾, 金泉으로 계속되고, 동쪽으로는 永川市남쪽으로 계속된다.

能城고개 동쪽의 接觸變質帶의 變位로 추정해 볼 때 단층선은 약 1700m정도 左橫變位(left strike slip)를 하고 있다.²⁾ 이 단층선에 의하여 팔공산 화강암 지역이 南(環城山塊), 北(八公山塊)으로 2등분 되어 있다.

第3節 南部山地

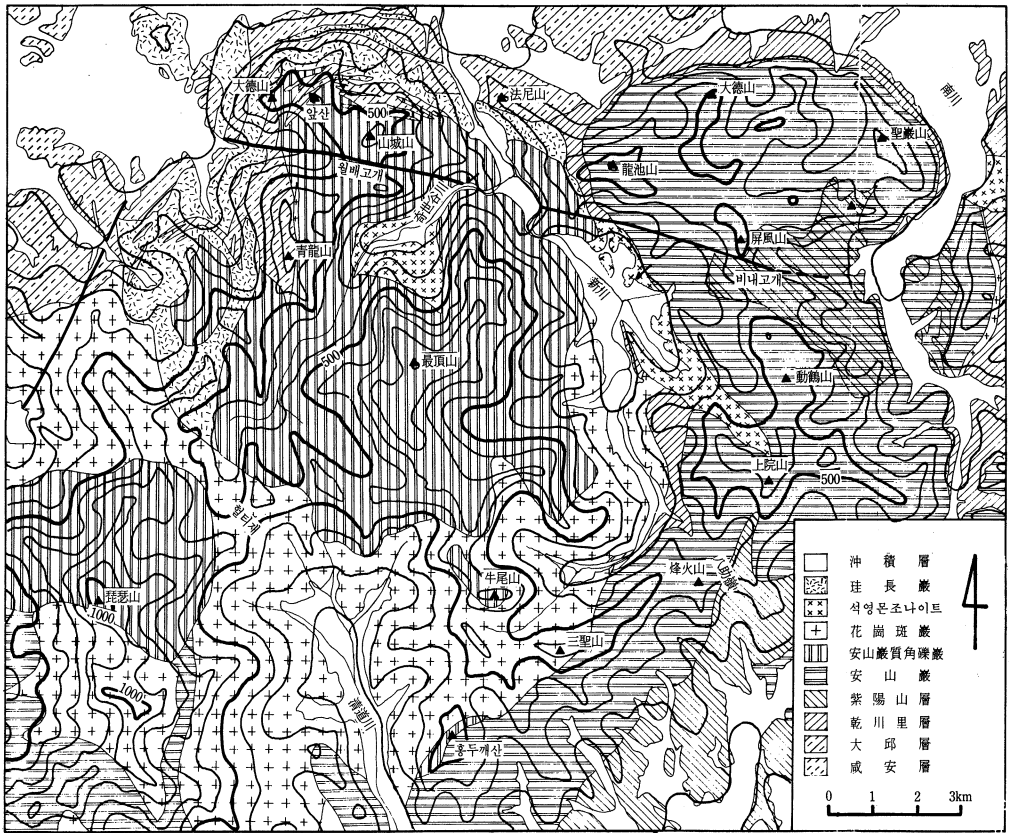
현재 대구직할시의 남쪽 경계는 月背 桃源洞 남쪽의 三筆峯(495m), 靑龍山(794m), 大明洞 남쪽의 앞산(660m), 山城山(653m), 壽城區 凡勿洞 남쪽의 法泥山(348m), 龍池峯(628m), 旭水洞 남쪽의 屏風山(523m), 聖岩山(469m)으로 연결되는 稜線을 따라 설정되어 있다. 그러나 大邱盆地와 淸道盆地의 경계 즉 대구시를 가로질러 琴湖江에 유입되는 新川과 淸道郡을 흘러 密陽江에 합류되는 淸道川간의 分水嶺은 이보다 더 남쪽 즉 達城郡 嘉昌面과 淸道郡 角北面·伊西面이 이루는 경계 즉 琵琶山(1,084m), 祐尾山(636m) 三聖山(636m) 烽化山(590m), 八助嶺(360m), 上院山(669m), 으로 연결되는 山 稜線이다. 따라서 지형적으로 보아 대구 지역은 이 후자의 경계까지 확장되는 것이 타당하며, 대구시의 綠地空間을 넓히는 측면에서도 바람직하다.

대구시의 南部山地란 바로 두 稜線 사이의 산지를 말한다. 이 산지는 북쪽의 대구분지와 남쪽의 청도분지 사이에 끼어있는 산지로 서남쪽의 琵琶山이 주봉이며, 앞산塊, 最頂山塊, 龍池山塊로 연결되는 산지이다. 지질적으로는 거의 白堊紀 末에 噴出, 貫入한 火成岩이다.

특히 安山岩, 安山斑岩, 安山岩質角礫岩이 대부분을 차지하며 이들 암석의 분포지역이 지형적으로 높은 산지를 형성하고 있다. 이에대하여 花崗斑岩, 석영몬조나이트 등의 지질이 분포하는 곳은 낮은 谷地로 되어 있다. 대구시를 향한 앞산塊의 북쪽사면에는 珪長岩類와 大邱層이 互層으로 이루고 있다.

지금은 거의 폐광이 되었지만 한때 번성했던 大韓重石 達城鑛業所의 重石鑛은 이들 安山岩 質岩에서 산출되었고, 요즈음 목욕탕, 정수기 등에 많이 넣고 있는 소위 ‘맥반석(麥斑石)’도 安山斑岩의 일종이다.

2) 立岩巖, 《朝鮮-日本列島地帶地質構造論考》, 東京大學校出版會, 1976, pp. 104-106.



〈圖 3-4〉

南部山地의 地質과 地形

이 남부산지는 新川과 그 지류 奇世谷川(일명 梧洞川, 亭垌골을 이루는 하천)에 의해서 깊게 開析되어 있어서 몇개의 山塊로 세분될 수 있다. 즉 新川 동쪽의 龍池山塊, 新川 서쪽은 다시 奇世谷川에 의하여 남북으로 나누어지는데 그 남쪽이 最頂山塊, 북쪽이 앞산塊이다. 특히 대구시민에게 잘알려져 있는 앞산塊는 동쪽에 과거 산성터가 있었던 山成山, 서쪽 안지랭이골에는 大德山(584m), 그리고 그 중앙에 앞산이 솟아 있다. 앞산에서 대구시까지 쪽으로 돌출하여 대구시를 한눈에 조망할 수 있는 산이 비파산(502m)으로 여기에는 케이블카의 종점이 설치되어 있다.

이 앞산 능선 남쪽 즉 월배-달마고개-嘉昌貯水地-龍溪里-杏亭里-비내고개-慶山郡 南

川面山田里에 이르는 동서로 형성된 斷層線이 있다. 이 단층선의 동쪽 연장선이 상대온천지대를 통과하고 있는것이 흥미롭다.

남부산지는 일반적으로 급준한 사면을 가지고 분지에 임하고 있으나 그 산정에 平坦面이 형성되어 있고 最頂山과 琵琶山정상부근에는 800m 이상의 고도에서 평탄면이 형성되어 있다.

이 평탄면들의 성인은 과거의 이 지역이 오랜 침식을 받아 기복이 완만한 準平原이 형성되었고 이것이 第三紀撓曲運動으로 隆起되었으며 그 뒤부터 현재에 이르기까지 침식을 받아 대부분이 개석되고 산정부 일부에만 남아있는 隆起準平原面으로 해석되고 있다.³⁾

남부산지는 南川, 新川, 辰泉川 등 비교적 큰 하천과 방사상으로 형성되어 있는 小河川들에 의하여 개석되고 있으며 이들 소하천들이 분지에 나오는 곳에서는 어김없이 扇狀地를 형성하고 있다.

第4節 中央低地

중앙저지는 대구분지의 盆地床에 해당되며 沖積平野와 侵蝕低地로 이루어져있다. 충적 평야는 분지상의 북부를 동서로 관류하는 琴湖江氾濫原과 남부산지에서 발원하여 분지상을 동서로 2분하면서 북류하여 금호강과 'T'자 모형으로 합류되는 新川氾濫原이 주를 이루며 漆谷의 八溪川과 月背의 辰泉川 중·하류부에도 상당히 넓은 충적평야가 형성되어 있다. 또한 북부산지의 남쪽산록과 남부산지의 북쪽산록을 연하여서는 소하천들의 谷口에 扇狀地들이 연속적으로 형성되어 있다.

侵蝕低地는 신천의 범람원에 의해서 동서로 이분되어 동쪽은 東部丘陵地, 東部侵蝕低地로 나누어지고, 서쪽은 西部侵蝕低地와 臥龍山丘陵性山地로 나누어진다.

I. 琴湖江 氾濫原

금호강은 永川郡과 靑松郡, 迎日郡의 경계부인 普賢山, 道德山 부근에서 발원하여 永川市 부근에서 대구 지역에 들어와 이를 동서로 가로 질러 흐르고 達西區 巴湖洞부근에서 많은 지류를 합하고, 서류하여 동구 叔泉洞 부근에서 대구지역에 들어와 이를 동서로 가로 질러

3) 小林貞一, 〈朝鮮半島 地形發達史と 近生代地史との 關係に就いての 一考〉《地理評》, 1931, pp. 525-550.

흐르고 達西區巴湖洞 부근에서 洛東江에 합류된다. 主流의 全長 116km, 流域面積 2,110km²인 洛東江의 한 대지류이다. 대구지역 내를 흐르는 琴湖江지류의 길이는 약 32km, 이고, 평균 하폭은 약 300m 전후이다.

대구지역내에서 金호강에 합류되는 지류는 동쪽에서 부터 南川, 栗下川, 不老川, 桐華川, 新川, 八溪川, 達西川들이다. 金호강 본류에 연한 층적평야는 동구의 東村(不老洞, 立石洞, 檢沙洞, 芳村洞, 新坪洞), 安心(栗下洞, 新基洞, 東西湖洞, 槐田洞, 大林洞) 부근에 폭 2-3km로 넓게 형성되어 있으며, 북구의 檢丹洞, 魯院洞 일대에는 1-2km의 폭으로 형성되어 있다. 東村, 安心부근에서 이 層적평야의 평균 標高는 35-40m, 檢丹洞에서 30km, 魯院洞에서 25km, 枝川 철교부근에서 20km이다.

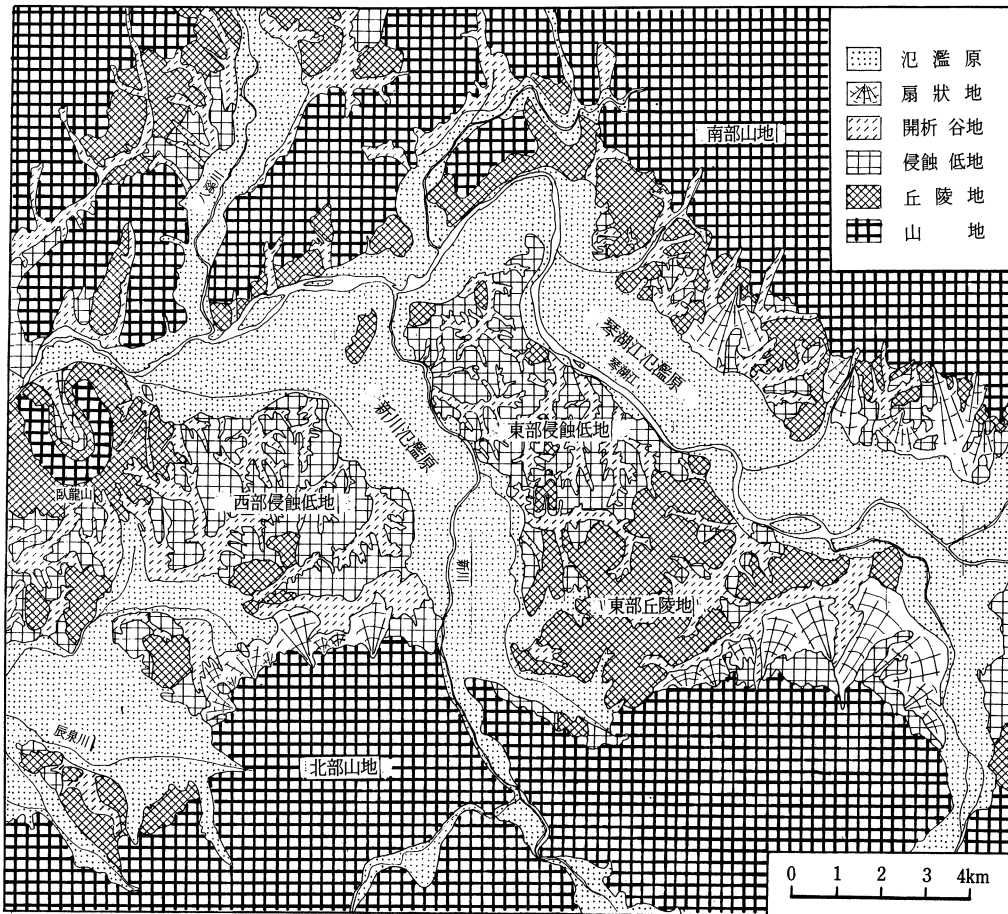
특히 東村부근에는 自然堤防이 넓게 형성되어 있다. 自然堤防은 하천이 범람을 할 때 모래나 자갈이 하천 양안에 쌓여서 형성된 層적평야상의 微高地로서 보통 그 후면에 형성된 背後濕地보다 2-3m정도 높다. 그러나 하천 연변에서 배후습지 쪽으로 가면서 완만히 낮아지기 때문에 주의해서 관찰하지 않으면 그 실체를 파악하기 힘들다. 그러나 자연제방과 배후습지의 토지이용이 현저하게 다르기 때문에 이를 통하여 살펴보면 쉽게 알아낼 수 있다.

자연제방은 하천에 인접해 있지만 고도가 높기 때문에 수로에 의한 관개가 불가능하고 또 토질이 砂礫質이기 때문에 밭농사, 과수원, 교통로, 주택지로 이용된다. 그러나 그 후면의 背後濕地는 보다 낮기 때문에 배수가 잘 안되고 또 토질이 粘土質이기 때문에 주로 논농사, 연밭, 토란밭 등으로 이용되고 있다. 東村에는 폭 500m전후의 자연제방이 현 金호강 우안의 인공제방과 대구선 철로 사이에 형성되어 있는데 과거에는 이곳에 과수원, 원예근교농업을 위한 밭농사 지역들이 형성되었으나 지금은 이 자연제방의 거의 대부분이 연속된 시가지로 바뀌어 저있다.

II. 新川 氾濫原

신천은 본류가 嘉昌面 牛鹿洞 주변의 牛尾山, 三聖山에서 발원하여 북쪽으로 흘러 砧山과 연암산 사이를 지나 金호강에 합류되는 主流의 길이 29.5km의 하천이다. 新川의 지류 奇世谷川(梧洞川)은 琵琶山 북동쪽에서 발원하여 북동쪽으로 흘러 龍溪洞 부근에서 본류에 합류되며, 泛魚川은 屏風山에서 발원하여 池山洞까지는 대략 북서류하고, 斗山洞부근에서 부터는 東部丘陵地의 서쪽 가장자리를 따라 북류하다가 東新橋부근에서 본류에 합류된다. 남부산지중의

본류와 지류 奇世谷川의 길이는 거의 비슷하며 奇世谷川 쪽이 1.5km 정도 짧을 뿐이다. 그러나 奇世谷川을 연하여서는 깊은 침식곡이 형성되어 있으며 谷底平野가 거의 없는 缺床谷을 형성하고 있다. 그러나 본류쪽은 곡폭이 넓고 곡저에는 충적평야가 형성되어 특히 玉盆里, 大逸桐, 冷泉洞 일대는 분지 경관을 이루고 있어 이를 嘉昌盆地라 하기도 한다.



〈圖 3-5〉

中央低地の地形分類圖

두 하천이 합류되는 龍溪洞에서 巴洞을 지나 上洞까지는 좁은 곡폭의 협곡을 형성하고 있으며, 이 협곡을 벗어난 上洞부근에서 부터 산지를 벗어나 넓은 壽城들이 형성된다. 新川氾濫原은 이 동서에 전개되고 있는 丘陵地 및 侵蝕低地를 양단하고 남동에서 북서로 펼쳐있는 장방형의 평야이다. 그 길이는 약 8km, 최대 폭은 약 3.25km이다. 이 충적평야의 동쪽 경계는 斗山洞 부근에서 범어로타리에 이르는 소위 ‘동대구로’와 범어로타리에서 東新橋까지 직선을 그은 선이 된다. 동신교에서 합류점까지 신천의 東岸에는 丘陵地가 임박하여 충적평야의 발달이 거의 없다. 서쪽 경계는 龍頭山, 水道山동측, 건들바위, 대구국민학교, 계성고등학교, 달성공원, 비봉국민학교, 경부선 철도, 와룡산에 이르는 선이다. 현재 신천의 유로는 인공제방에 의해서 고정되어 있으나 과거에는 이 동서 범위 안에서 유로를 여러번 바꾸어가면서 흘렀으며, 達西川은 한때 신천이 서쪽으로 치우쳐 흘렀던 시기의 구유로의 한 흔적이다. 앞에서 설정한 동서 경계 중에는 과거 신천의 측방침식으로 형성된 낮은 절벽이 지금도 곳곳에 남아 있는데 수도산 동쪽과 건들바위쪽으로 연결되는 절벽이 그 대표적인 예이다.

上洞 부근의 이 충적평야의 標高는 75m전후이고 금호강에 합류되는 砧山橋 부근에서는 30m전후로 이 평야의 평균 勾配는 0.5%로 비교적 급하다. 큰 건물의 기초공사때 관찰한 바에 의하면 이 평야의 충적층도 표면은 砂質粘土로 이루어져 있으나 약 1m정도 아랫쪽부터 河床礫을 담은 圓礫이 나타나고, 이 礫層의 두께는 깊은 곳은 6-7m, 얇은 곳은 3m 정도의 層厚를 보인다. 이와같은 이 평야의 勾配와 堆積物의 특색으로 보아 신천유역의 충적평야는 上洞부근을 扇頂으로한 한 큰 扇狀地이다. 그러나 砧山洞, 魯院洞 일대는 범람원적 성격이 더 짙다.

III. 八溪川 沖積平野

八溪川은 架山, 梅峯山에서 발원하여 남쪽으로 흘러 八達橋 부근에서 琴湖江에 합류되는 주류의 길이 약 18km의 하천이다. 이 하천 유역의 중·하류부가 대구지역에 해당되며 漆谷이란 지명으로 익숙해져 있다. 대구지역에 해당되는 八溪川 충적평야는 남북 길이 약 8km, 폭 700-1800m에 이르는 평야로 특히 東川洞 일대가 그 폭이 가장 넓으며, 이 부근에는 선 사유적들이 많이 발견되었다.

IV. 辰泉川 沖積平野

진천천은 앞산괴의 山城山 서사면에서 발원하여 서쪽으로 곧게 흘러 花園부근에서 洛東江에 합류되는 주류의 길이가 8.5km인 소하천이다. 이 하천은 斷層線에 지배를 받고 있어서 산지에서 곧게 흐르고 谷口에서는 月背地域으로 익숙히 알려진 沖積扇狀地를 형성하고 있다.

上仁洞 부근이 扇頂이며, 邱馬高速道路가 지나는 부근이 대략 扇端에 해당되며, 그보다 하류쪽은 洛東江의 氾濫原의 성격이 강하다. 이 평야는 동서 길이 약 3.5km, 폭 2km의 비교적 넓은 沖積平野를 형성하고 있다.

V. 盆地緣의 扇狀地

盆地緣 즉 북부산지의 남록과 남부산지의 북록에는 扇狀地群이 형성되어 있다. 북부산지 남록의 扇狀地 분포는 東村, 安心지역으로 屯山洞, 上梅洞, 東內洞등에 扇頂을 둔 선상지가 동서로 배열되어 合流扇狀地를 이루고 있다.

남부산지 북록에 분포하는 선상지는 소위 孤山扇狀地로 알려져 있는 蘆邊洞, 內患洞일대와 앞산의 고산골, 큰골, 안지랭이골의 출구에 선상지가 형성되어 동서로 合流扇狀地를 이루고 있다.

이들 선상지를 형성한 소하천들은 流水가 伏流하므로 평상시에는 물을 보기 힘들지만 큰 비가 왔을 때는 범람과 유로이동이 심한 선상지의 일반적 특성을 보이고 있다.

남부산지 산록의 선상지는 자갈이 많고, 경사도 급하여 시가지가 형성되기 이전에는 밭농사지로 주로 이용되었다. 그러나 북부산지 남록에 형성된 선상지는 보다 細粒質의 퇴적물로 이루어져있고, 면의 경사도 완만하여 대부분이 논으로 이용되고 있다. 이와같은 지형적 특성의 지역차는 배후산지의 지질적 특성의 차이 때문에 야기된 것으로 보인다.⁴⁾

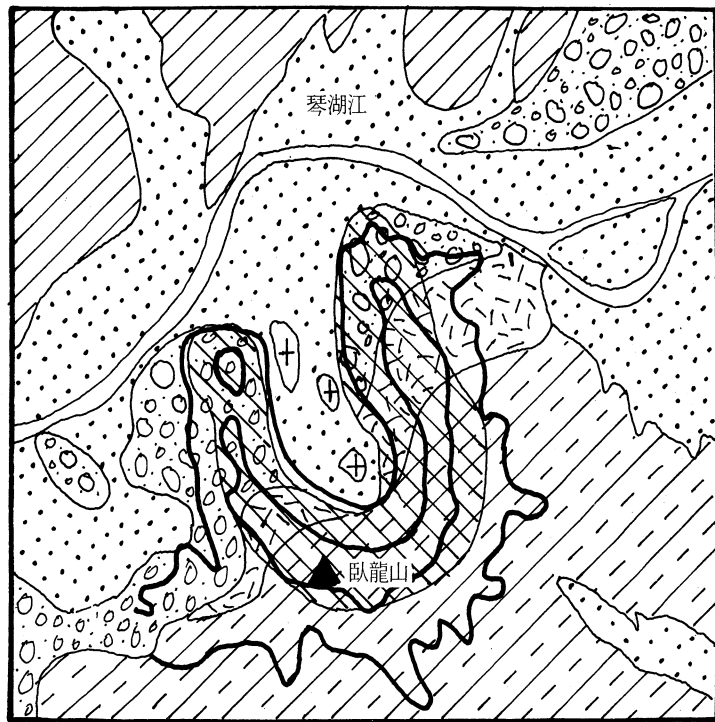
VI. 東部丘陵地와 侵蝕低地

東部丘陵地와 侵蝕低地는 新川氾濫原의 동쪽에 분포해 있는 盆地床地形으로 이는 다시 범어로타리에서 第二야양교를 연결하는 선을 경계로 남동쪽 부분은 起伏이 좀 큰 ‘東部丘陵地’를

4) 洪慶姬, 《大邱市の 都市地理學的 研究》, 大邱市, 1966.

형성하고, 북서쪽 부분은 파랑상의 기복을 갖는 準平原狀의 ‘東部侵蝕低地’를 이루고 있다.

‘東部丘陵地’는 池山洞, 黃金洞, 梨川洞, 蓮湖洞, 時至洞, 梅湖洞, 顧母洞지역으로서 斗里峯(215m), 母峯(150.6m), 兄弟峯(195m) 등의 낮은 봉우리와 능선으로 이루어져 있고 그 사이에 谷地가 형성 되어있다. 현재 이 지역은 都市開發 制限區域으로 설정되어 있어서 綠地가 잘 형성되어 있으며, 개발제한이 해제되더라도 연속적인 시가지가 형성되기에는 기복이 좀 심한 지역이다.



〈圖 3-6〉 臥龍山地의 地質·地形

‘東部侵蝕低地’는 孝睦洞, 新川洞, 新岩洞, 晚村洞, 伏賢洞, 山格洞지역으로 標高 50-60m 전후의 파랑상 기복을 갖는 침식저지이다. 다만 경북도청 뒷쪽 연암산(128m)은 신천 건너편의 砬山(120m)과 함께 표고가 100m가 넘고 가파른 경사를 보이는 독립구릉의 모습을 보인다. 이 두 산은 주변의 퇴적암 보다 硬岩인 玢岩으로 되어 있어 침식 저항으로 생긴 일종의 殘丘와 같은 지형이다. 이 침식저지는 얇은 開析谷에 의하여 다양하게 개석을 받고 있다. 이 침식 저지에는 개석곡지와 구분없이 시가지가 연속적으로 형성되어 있다.

VII. 西部 侵蝕低地

新川 汎濫原의 서측에서 부터 臥龍山 동쪽까지 넓게 형성되어 있으며, 大明洞, 南山洞, 大新洞, 飛山洞, 聖堂洞, 內塘洞, 中里洞, 梨峴洞 등이 이에 해당된다. 50-70m 표고의 완만한 기복을 갖는 準平原狀의 침식저지이며, 연속된 시가지가 형성되어 있다. 서부 침식저지 중에 100m 전후의 丘陵性 지형을 보이는 부분은 두류산(131m)공원 일대와 本洞 뒷쪽 일부로 差別侵蝕의 결과로 생긴 殘丘性 지형이다. 서부 침식저지에도 많은 얇은 開析谷이 형성되어 있다.

VIII. 臥龍山 丘陵性 山地

臥龍山(299.6m)은 대구시의 서쪽 경계를 이루는 丘陵性 山地로 200m이상의 稜線이 말발굽 모양으로 형성되어 있고, 중앙은 분지를 이루고, 북쪽으로 열려 있다. 이와 같은 지형은 花崗岩이 소규모로 餅盤貫入을 하여 주위의 지질을 熱接觸變質시킨 결과이다. 접촉변질된 주변 경암부는 침식에 견디어 殘丘性 丘陵地를 만들었고, 중앙부의 화강암은 침식에 약하기 때문에 침식되어 분지저가 된 모식적인 花崗岩 開析盆地이다.

臥龍山은 그 고도에 있어서 남부 및 북부산지 보다 훨씬 낮지만 대구시의 서쪽을 막는 산지로 大邱盆地(狹義)의 분지적 지형 형성에 큰 역할을 하는 산지이다.

第4章 氣 候

第1節 一般的 特性

인류의 생활은 예나 지금이나 氣候의 環境과 밀접한 관련을 가지고 영위되고 있다. 헌팅턴(E. Huntington)은 기후가 인간의 능률을 규정하는 요인이라고 강조하고 인간활동과 氣候變動을 설명하면서 일정한 문화형성에는 바로 그 문화를 낳게 하는 일정한 기후가 있다고 주장하였다. 이보다 앞서 그리스시대의 히포크라테스(Hippocrates)는 기후가 인간의 氣質이나 體質에 영향을 미친다고 주장하였다.

좁은 국토에서 각 지방의 기질을 특징지우기는 어려우나 대구시민은 다른 지방의 주민들에 비하여 독특한 기질을 가졌다고 보는 사람이 많다. 외면적으로는 무뚝뚝하고 우직스럽게 보이지만 내면적으로는 끈기가 있고 신뢰성이 강하다. 또 곤경에 처해서도 실망하거나 단념하지 않고 끈끈하게 이어가는 대구시민의 기운은 부분적으로 大邱 風土의 산물이라고 설명할 수 있다. 이것은 日最高氣溫 40℃까지 기록되는 內陸盆地 특유의 여름 酷暑와 겨울 酷寒, 빈번한 旱魃·洪水 등 혹심한 기후환경에 적응하면서 살아가는 과정에서 형성된 기질이라고 할 수 있다.

韓半島는 아시아 대륙의 동안에 위치하며 다양한 기후특성을 나타내고 있다. 더구나 寒帶 大陸氣團과 熱帶海洋氣團과의 접촉대인 寒帶前線帶가 이동하는 중위도 지방에 위치하여 시간적으로나 공간적으로 기후의 變動性이 크다.

大邱는 한반도 남부의 내륙지방에 위치하며 해양의 영향이 적은 내륙도시일 뿐만 아니라 크게는 太白山脈과 小白山脈으로 둘러싸인 慶尙盆地內에, 작게는 八公山塊, 琵琶山塊와 기타 丘陵으로 둘러싸인 大邱盆地에 위치하고 있다. 이와 같은 內陸盆地 位置라는 특유한 氣候因子의 작용에 의해 大陸性氣候의 성격이 강하다. 따라서 여름의 高溫과 겨울이 상대적 低溫이 대구기후의 특색이고, 이 결과 年氣溫較差도 크다. 특히 대구의 여름철의 酷暑는 1942년 8월 1일 40℃를 기록할 정도로서 심하며, 이 때문에 대구는 韓國의 暑極으로 알려졌으며 30℃이상의 폭서의 지속기간도 다른 지방보다 길다. 또 대구는 北東-南西方向의 小白山脈 동쪽에 위치하여 東進하는 偏西風의 風下側 雨陰地域에 속하여 다른 지방보다 降水量이 적어서 한국의 대표적인 少雨地域이다. 이와 같이 독특한 성격을 지닌 대구의 기후특색을 氣候要素別로 보면 다음과 같다.

第2節 氣 溫

대구의 연평균기온은 13.2℃이며 최한월인 1월 평균기온이 -0.7℃, 최난월인 8월 평균기온이 26.3℃로서 기온의 연교차가 27.0℃에 이른다. 일최고기온의 분포를 <表 4-1>에서 보면 7월 30.2℃, 8월 31.3℃로서 열대지방의 기온을 나타내고 있다. 또 일최저기온을 보면 1월 -5.1℃, 2월 -3.2℃, 12월 -2.7℃로서 이 3개월이 영하의 기온을 나타내며 한랭한 겨울을 이룬다. 대구와 거의 동위도상의 타도시 기온을 비교하면 <表 4-2>와 같다.

<表 4-1> 大邱의 月別 平均氣溫 (℃)

월 요소	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	전년	기온 연교차
평균 기온	-0.7	1.3	6.5	13.2	18.5	22.2	25.7	26.3	21.0	15.0	8.1	1.8	13.2	27.0
일최고 기온	4.5	6.6	12.4	19.4	24.8	27.8	30.2	31.3	26.3	21.4	13.9	7.4	18.8	26.8
일최저 기온	-5.1	-3.2	1.4	7.4	12.6	17.4	22.0	22.5	16.7	9.7	3.2	-2.7	8.5	27.6

資料: 기상청, 《한국기후표》(1961~1990)

<表 4-2> 大邱와 同緯度地點의 氣溫 (℃)

地點名	緯度	最寒月	最暖月	年平均	溫氣年較差
大邱	35°53'N	-0.7	26.3	13.2	27.0
全州	35°49'N	-1.2	26.3	12.9	27.5
浦項	36°02'N	0.7	25.6	13.4	24.9
群山	35°59'N	-0.8	25.7	12.5	26.5
東京	35°41'N	4.7	26.7	15.3	22.0
칭다오(靑島)	36°04'N	-1.8	25.3	12.0	27.1
란조우(蘭州)	36°03'N	-6.7	22.3	9.1	29.0
지블롤터(Gibraltar)	36°09'N	13.2	24.2	18.1	11.0
테헤란(Teheran)	35°41'N	3.2	29.4	16.7	26.2
라스베이거스(Las Vegas)	36°05'N	7.0	32.4	19.0	25.4
내슈빌(Nashville)	36°07'N	2.8	26.3	15.1	23.5
北緯 36m 世界平均		8.8	25.3	16.6	16.5

資料: 기상청, 《한국기후표》(1961~1990)

日本氣象廳, 《外國氣候表》(1951~1980)

大邱의 年平均氣溫(13.2℃)은 중국의 內陸都市 란조우(蘭州) 9.1℃, 山東半島에 위치한 청다오(靑島) 12.0℃, 우리나라의 群山(12.5℃), 全州(12.9℃) 보다는 높으나 海岸都市인 東京(15.3℃), 지블롤터(18.1℃), 內陸都市인 이란의 테헤란(16.7℃), 미국의 라스베이거스(19.0℃), 내슈빌(16.7℃)에 비하면 낮다. 대구의 最寒月氣溫(-0.7℃)은 란조우(-6.7℃), 청다오(-1.8℃), 全州(-1.2℃), 群山(-0.8℃)등과 더불어 0℃ 이하를 나타내어 同緯度上의 유럽이나 북아메리카의 타도시에 비하면 매우 낮다. 이는 겨울에 한랭한 시베리아 高氣壓이 한반도를 지배하기 때문이다. 대구의 最暖月 氣溫(26.3℃)은 건조 지방의 도시인 테헤란(29.4℃), 라스베이거스(32.4℃)에 비하면 낮으나 습윤 지방의 도시로서는 매우 높다. 따라서 冬季寒冷, 夏季高溫으로서 기온의 年較差가 매우 커서 大陸性氣候의 성격을 나타내고 있다. 특히 대륙성 기후의 성격을 잘 나타내고 있는 것은 여름철 대구의 더위이다. 日最高氣溫 30℃ 이상의 일수가 56일로서 한국의 暑極都市임을 알 수 있다. 대구와 한국 주요도시의 日平均·日最低氣溫日數를 비교하면 <表 4-3>과 같다.

<表 4-3> 韓國 主要都市의 日平均·日最高·日最低氣溫日數

일수 \ 주요도시	대구	강릉	서울	인천	포항	전주	울산	광주	부산	목포	여수	제주
일평균 25℃ 이상의 일수	48	31	34	25	37	48	40	46	36	42	38	52
일최고 30℃ 이상의 일수	56	30	30	15	37	49	39	44	31	34	20	32
일최저 25℃ 이상의 일수	8	6	4	3	7	8	5	8	10	10	8	13

資料：기상청, 《한국기후표》 2(1961~1990)

대구와 더위는 장마전선이 북상한 후 北太平洋高氣壓 세력이 확장됨에 따라서 점차 더워져서 7월 하순부터 最高氣溫이 30℃이상을 기록하면서 본격적으로 덥기 시작하여 8월 상순(日最高氣溫 32.5℃)에 그 절정을 이룬다. 보통 이 더위는 8월 중순까지 지속되어 酷暑의 三伏더위를 겪게 된다. 이 때 고온다습한 北太平洋高氣壓의 영향으로 不快指數를 높일 뿐만 아니라 日最低氣溫 25℃ 이상의 무더운 熱帶夜현상이 수일간 지속되어 시민을 지치게 만드는 대구더위는 전국적으로 유명하다. 우리나라 歲時風俗의 하나인 ‘더위팔기’¹⁾가 대구지방에서 가장 성행하였던 것도 대구지방의 혹열한 여름더위와 관련이 있다.

1) 김연옥, 《한국의 기후와 문화》, 이화여자대학교 출판부, 1985, pp. 317~318.

1942년 8월 1일 대구는 日最高氣溫 40℃를 기록하였다. 이는 簡易觀測기록을 제외하면 한국 測候所의 기록중 最高氣溫이다. 이 후로 대구는 한국의 暑極都市로서 널리 알려졌다. 대구를 비롯한 한국 주요도시의 氣溫 極値와 나타난 날을 요약하면 <表 4-4>와 같다.

<表 4-4> 韓國 主要都市의 氣溫의 極値 (℃)

구분 도시명	最高氣溫		最低氣溫		極値較差
	極値	日 字	極値	日 字	
대구	40.0	1942년 8월 1일	-20.2	1923년 1월 19일	60.2
강릉	39.4	1942년 7월 25일	-20.2	1915년 1월 13일	59.6
서울	38.2	1943년 8월 24일	-23.1	1927년 12월 31일	61.3
인천	38.9	1949년 8월 16일	-21.0	1931년 1월 11일	59.9
포항	38.1	1944년 8월 4일	-15.0	1945년 1월 6일	53.1
전주	38.2	1939년 7월 21일	-17.1	1933년 1월 27일	55.3
울산	38.6	1983년 8월 3일	-16.7	1936년 1월 27일	55.3
광주	37.9	1939년 7월 21일	-19.4	1943년 1월 5일	57.3
부산	36.7	1983년 8월 4일	-14.0	1915년 1월 13일	50.7
목포	37.0	1924년 8월 18일	-14.2	1915년 1월 13일	51.2
여수	36.4	1966년 8월 3일	-12.6	1977년 2월 16일	49.0
제주	37.5	1942년 7월 25일	-6.0	1977년 2월 16일	43.5

資料: 기상청, 《한국기후표》 2, 1991.

대구의 더위는 한반도를 지배하고 있던 北太平洋高氣壓의 남하에 의하여 8월 하순경에는 끝난다. 여름을 지배했던 북태평양고기압의 자리를 대륙의 고기압이 점차 발달하여 메우게 되면 대구의 날씨는 가을로 접어들게 된다.

대구의 겨울은 내륙분지 특유한 위치 및 지형의 영향으로 寒冬이다. 最寒月(1월) 평균기온 -0.7℃이나 일최저기온은 -5.1℃로서, 시베리아 고기압에 의한 북서풍에 노출되어 있어서 體感溫度는 더욱 저하하게 된다. 最低氣溫의 極値는 1923년 1월 19일의 -20.2℃이며 이 수치는 대구와 비슷한 緯度上의 全州(-17.1℃)보다 3.1℃, 浦項(-15.0℃)보다 5.2℃나 낮다. 그러나 1960년이후의 도시화와 산업화에 따른 석탄, 석유 등 化石燃料 소비량의 급증이 가져온 이산화탄소(CO₂) 증가가 大氣溫暖化現象 즉 溫室效果를 일으켜 대구의 겨울은 暖冬現象이 뚜렷히 나타나고 있다. 대구의 최한월 1월의 평균기온이 1931~1960년 평균이 -1.6℃, 1961~1990년 평균이 -0.7℃로서 지난 30년간 0.9℃ 상승하였고 일최고기온은 0.8℃, 일최저기온은 1.1℃나 상승하여 지난 30년간 대구의 도시성장과 더불어 기온도 상승하고 있다. 이와 같이 도시가 발달하면서 도시는 주변지역과는 특유한 기후를 형성하게 되는데 이 기후를 都市氣候(urban climate)라 한다. 인구가 집중하고 공장의 증가, 건물의 고층화와 자동차의 격증에 따라서 人工熱이 집중되고

大氣가 汚染되며, 도시는 주변 교외지역이나 농촌과는 달리 인간이 만든 기후(man made climate)가 형성된다. 대구 역시 1960년대 이후 시가지가 급속히 팽창되고 대구의 北部工業地帶와 西部工業地帶를 중심으로 공업화·도시화가 급속히 진전됨에 따라서 都市氣候의 특색을 잘 나타내고 있다. 즉 대구의 시가지 내부는 교외에 비하여 기온이 높고 日射는 약하며 스모그(smog)현상이 빈번하게 발생하는 등이 그것이다. 일반적으로 도시의 等溫線은 대체로 同心圓狀으로 나타나고 도심지는 高溫域을 형성하는데, 이를 ‘熱섬(heat island)’이라고 부른다.

이에 대하여 농촌 혹은 인구나 건축물의 밀도가 낮은 주변교외지역은 低溫인 冷涼地帶(cool island)가 나타난다.²⁾ 대구의 경우에도 중앙로를 중심한 都心部와 北部工業地帶 및 남부의 주택밀집지역에 高溫域이 형성되고 있다.³⁾ 都市域과 郊外와의 氣溫差를 비교하기 위하여 大邱와 漆谷을 비교하면 年平均氣溫 및 年平均日最低氣溫은 다 같이 대구도시역이 교외역인 칠곡보다 高溫이며, 또한 그 차이가 해마다 커지는 경향을 나타낸다.⁴⁾ 특히 最寒月 1월의 경우 평균 기온은 1.1℃, 일최저기온은 2.8℃나 대구가 더 높다.

대구와 경상북도의 주요 관측지점의 월별 평균기온, 일최고기온, 일최저기온을 나타내면 <表 4-5>, <表 4-6>, <表 4-7>과 같다. 이를 기초하여 대구를 중심한 경상북도 일원의 최난월(8월)의 일최고기온분포도를 작성하면 <圖 4-1>과 같다. 대구를 중심으로 최고온 等溫線(31℃선)이 圓을 이루고 있으며 북동쪽으로 향해서 점차 낮아져서 蔚珍주변에서는 28℃ 等溫線이 北西-南東方向으로 지나가고 있다.

<表 4-5> 월별 평균기온 (℃)

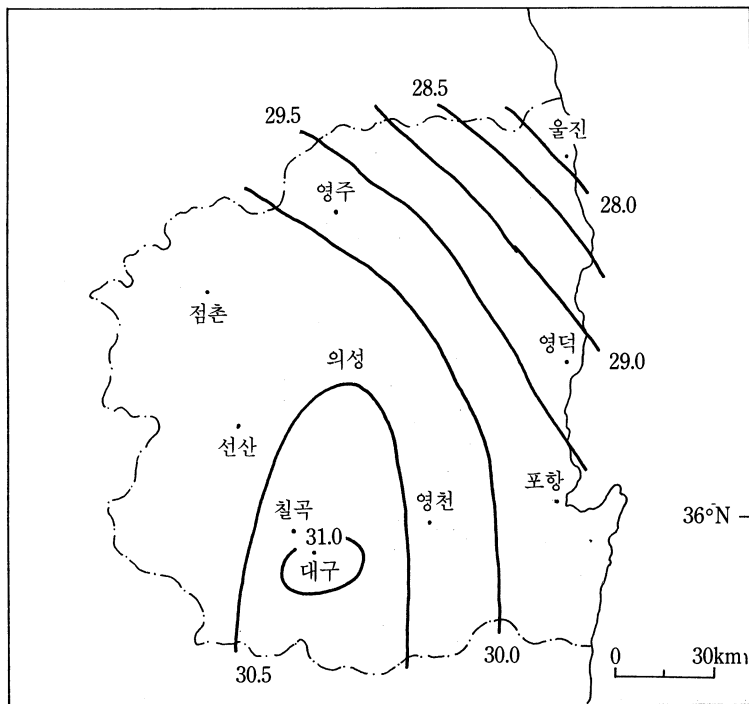
지명 \ 월	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	전년	연교차
대 구	-0.7	1.3	6.5	13.2	18.5	22.2	25.7	26.3	21.0	15.0	8.1	1.8	13.2	27.0
포 향	0.7	2.4	6.9	12.7	17.6	20.7	24.7	25.6	20.9	15.7	9.5	3.4	13.4	24.9
울 진	0.7	1.6	5.7	11.7	16.2	19.0	22.7	24.0	19.7	14.8	8.8	3.4	12.4	23.3
칠 곡	-1.8	0.4	5.9	12.5	17.3	21.6	25.0	25.4	19.9	13.6	6.8	0.5	12.3	27.2
영 주	-3.8	-1.2	4.3	11.4	16.8	20.9	23.9	24.3	18.8	12.3	5.1	-1.3	11.0	28.1
점 촌	-2.3	0.0	5.4	12.5	17.7	21.8	24.6	25.1	19.6	13.5	6.3	0.1	12.0	27.4
영 덕	0.2	1.6	6.0	12.1	16.9	20.1	23.9	24.8	20.0	14.7	8.6	2.8	12.6	25.0
의 성	-3.8	-1.2	4.4	11.6	16.8	21.3	24.5	24.9	19.1	12.2	5.0	-1.4	11.1	28.7
선 산	-2.2	0.0	5.3	12.3	17.5	21.7	24.6	24.9	19.1	12.2	5.0	-1.4	11.1	28.7
영 천	-1.5	0.6	5.6	12.2	17.2	21.2	24.6	25.2	19.7	13.6	6.8	0.8	12.2	26.7

資料 : 기상청, 《한국기후표》(1961~1990)

2) 金蓮玉, 《氣候學概論》, 正益社, 1987, p. 369.

3) 李炳坤·金日坤, 〈大邱市 冬季氣溫의 分布에 關한 研究〉《慶北大學校論文集》23, 1977, pp. 39~51.

4) 李炳坤·文永守, 〈우리나라 主要都市와 그 隣接地域에서의 氣候變動傾向〉《慶北大學校論文集》39, 1985, pp. 51~63.

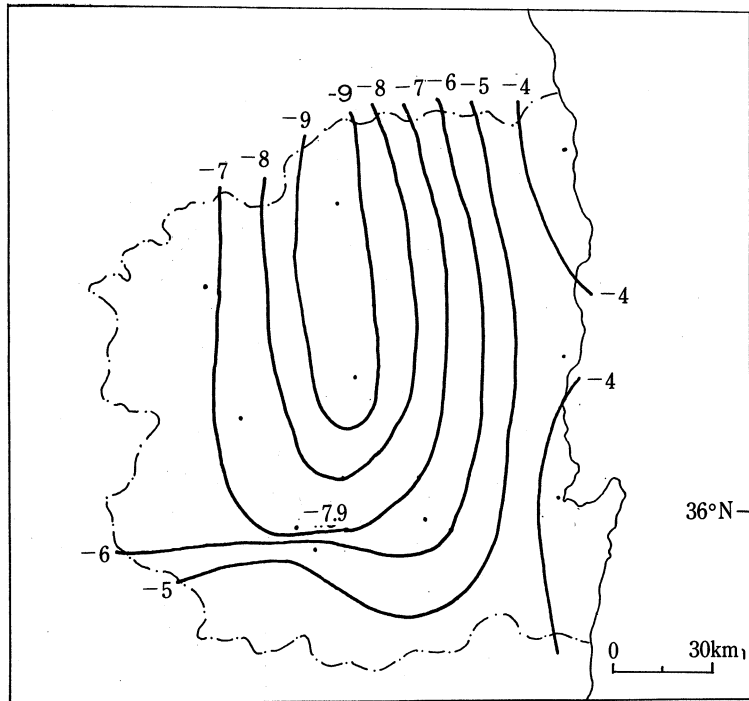


〈圖 4-1〉 최난월(8월)의 일최고기온분포(°C)

〈表 4-6〉 월별 일최고기온 (°C)

지명 \ 월	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	전년	연교차
대 구	4.5	6.6	12.4	19.4	24.8	27.8	30.2	31.3	26.3	21.4	13.9	7.4	18.8	26.8
포 항	5.7	7.3	11.9	17.8	22.8	25.1	28.7	29.7	25.1	20.9	14.6	8.6	18.2	24.0
울 진	5.8	6.3	10.2	16.3	20.7	22.7	26.1	27.5	23.7	19.9	13.9	8.8	16.8	21.7
칠 곡	4.5	6.7	12.7	19.5	27.7	27.7	29.9	30.6	26.3	21.2	13.6	7.2	18.7	26.1
영 주	2.2	4.7	10.8	18.5	27.0	27.0	28.8	29.9	25.3	19.9	11.8	5.0	17.3	27.7
점 촌	2.9	5.3	11.5	19.1	27.5	27.5	29.2	30.2	25.7	20.3	12.1	5.5	17.8	27.3
영 덕	5.6	7.0	11.4	17.9	25.0	25.0	28.2	29.2	25.0	20.9	14.5	8.6	18.0	23.6
의 성	3.7	5.9	11.9	19.4	27.7	27.7	29.6	30.5	25.8	20.7	13.1	6.5	18.3	26.8
선 산	3.4	5.7	11.7	19.2	27.4	27.4	29.0	30.2	25.8	20.6	12.6	6.0	18.0	26.8
영 천	4.5	6.7	12.2	19.0	27.2	27.1	29.4	30.4	25.8	21.2	13.7	7.2	18.5	25.9

資料：기상청, 《한국기후표》(1961~1990)



〈圖 4-2〉 최한월(1월)의 일최저기온분포(°C)

〈表 4-7〉 일별 일최저기온 (°C)

월 지명	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	전년	연교차
대 구	-5.1	-3.2	1.4	7.4	22.5	16.7	22.0	22.5	16.7	9.7	3.2	-2.7	8.5	27.6
포 향	-3.3	-1.8	2.3	7.8	12.8	17.0	21.4	22.4	17.4	11.3	5.1	-0.9	9.3	25.7
울 진	-3.6	-2.6	1.2	6.6	11.3	15.4	19.7	20.7	15.6	9.9	4.1	-1.2	8.1	24.3
칠 곡	-7.9	-5.7	-0.9	5.1	9.7	15.8	20.9	21.0	14.4	6.9	0.6	-5.4	6.2	28.9
영 주	-9.4	-6.6	-1.7	4.2	9.6	15.2	19.8	19.8	13.4	5.9	-0.6	-6.8	5.2	29.2
집 춘	-6.9	-4.7	-0.1	5.8	11.1	16.5	20.7	20.9	14.7	7.6	1.1	-4.5	6.8	27.8
영 덕	-4.3	-3.0	0.8	6.0	10.9	15.7	20.3	20.9	15.5	9.1	3.4	-2.0	7.8	25.2
의 성	-10.0	-7.3	-2.2	3.6	8.9	15.1	20.2	20.3	13.8	5.4	-1.2	-7.6	4.9	30.3
선 산	-7.1	-5.1	-0.3	5.3	10.6	16.6	20.7	20.7	14.5	7.2	1.0	-4.7	6.6	27.8
영 천	-6.7	-4.6	-0.3	5.2	10.1	16.0	20.7	20.9	14.8	7.4	1.2	-4.6	6.7	27.6

資料: 기상청, 《한국기후표》(1961~1990)

〈圖 4-2〉의 대구를 중심으로 경상북도 일원의 最寒月(1월)의 日最低氣溫分布를 보면 대구는 浦項, 蔚珍 주변의 해안지방 보다는 低溫이지만 경상북도 내륙지방인 義城, 榮州지방에 비하면 4~5℃나 높다.

이상에서와 같이 대구의 氣溫分布 특색을 보면, 한국의 暑極都市로서의 여름은 最高溫城에 속하여 酷暑를 나타내며 겨울은 同緯度地域 및 東海岸地方에 비하면 寒冬이다. 따라서 氣溫의 年較差도 상당히 높게 나타나서 大陸性氣候의 성격을 보이고 있다. 이와 같은 기온분포의 특색을 나타내는 것은, 대구가 위치와 지형적으로 서쪽은 小白山脈, 동쪽은 太白山脈에 둘러싸인 內陸盆地로서 해양의 영향이 차단되고 두 산맥을 넘어오는 바람의 지사면(風下側)으로서의 珓(föhn)현상과 가마솥과 같은 盆地 특유한 지형에 의해 여름은 熱의 축적, 겨울은 寒氣의 축적이 극심한 결과이다.

第3節 降水量

한반도는 아시아 季節風帶에 속하여 降水量의 계절적 분포가 균등하지 않고 雨期和 乾期가 뚜렷이 구분된다.⁵⁾ 연평균 강수량은 600~1500mm이고 세계적으로 볼 때 비교적 습윤한 지역에 속한다.

강수량은 타기후요소에 비해 시간적으로 變動性이 클 뿐만 아니라 空間的으로도 變動性이 크다.⁶⁾ 따라서 한국에 있어서의 降水量分布는 地勢 및 위치에 따라서 지역적 차이가 크다.

대구의 연평균 강수량은 1030.6mm로서 남해안 지방의 1400~1500mm, 중부지방의 1200~1300mm 강수량에 비하면 대구의 강수량은 현저히 적다. 이와 같이 강수량이 적은 이유는 남-북 방향의 太白山脈과 북동-남서 방향의 小白山脈에 둘러싸인 嶺南地方의 內陸中心에 위치한 內陸盆地로서 東進하는 溫帶底氣壓 및 氣壓谷 등의 濕潤氣流의 유입이 방해되는 風下側의 雨陰(rain shadow)현상의 결과이다.

대구지방의 夏季(6,7,8월) 강수량은 연강수량의 54%로서 우리나라 내륙타지역의 夏季集中率과 거의 비슷하다. 대구의 연강수량 1030.6mm에 대하여 年蒸發量은 1331.8mm로서 강수량을 초과하고 있다. 증발량이 많은 것은 대구가 타도시에 비해서 고온이고, 降水日이 적고 無降水日이

5) 全光植 外, 《韓國의 氣候》, 一志社, 1982, p. 23.

6) 楊辰錫, 〈韓國에 있어서 夏季 早靄의 地上氣壓場의 諸特性〉, 《慶北大學校論文集》42, 1986, p. 96.

많으며, 또한 快晴日이 많아서 日照率이 높기 때문이다. 따라서 증발량에 대하여 강수량이 적은 대구지방은 예로부터 벼 移秧期인 5·6월에 早魃로 시달림을 받아왔고 大都市로 성장하면서는 공업용수와 생활용수 확보에 많은 경제력을 투입하고 있다.

강수일수에 있어서도 대구는 우리나라의 타도시에 비하여 가장 적은 연 93일로서 광주(127일), 전주(120일), 목포(119일), 서울(110일)등에 비하여 현격히 적다. 그러나 同緯度上의 세계 다른 도시에 비하면 대구는 多雨地球에 해당된다. 東京(1460.2mm), 내슈빌(1233.1mm)등에 비하면 200~400mm정도 강수량이 적지만 중국의 內陸都市 蘭州(324.6mm), 山東半島의 靑島(766.5mm), 地中海氣候地域에 속하는 지브롤터(810.5mm), 乾燥氣候地域에 위치한 테헤란(247.4mm), 라스베이거스(106.3mm) 등의 도시에 비하면 대구는 多雨地域을 이룬다. 이는 아시아 동안에 위치한 한반도가 습윤한 溫帶季節風(monsoon)지역에 속하기 때문이다. 대구의 월별 평균강수량과 계급별강수일수는 <表 4-8>에서 나타내었으며 대구의 연강수량과 강수일수를 우리나라 주요도시와 비교한 것은 <表 4-9>와 같다.

<表 4-8> 대구의 월별 평균 강수량과 강수일수

월	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	전년
강수량·일수													
강수량(mm)	20.5	28.8	50.7	78.0	75.2	128.6	233.5	193.0	122.8	48.1	37.3	14.1	1030.6
강수일수cm0.1mm	4.7	5.5	6.7	8.8	7.5	9.7	13.5	11.1	10.0	5.3	6.0	4.3	93.1
강수일수cm 10mm	0.6	1.0	1.9	2.8	2.7	4.0	6.3	4.8	3.4	1.7	1.2	0.4	30.6
강수일수cm 30mm		0.1	0.2	0.5	0.4	1.3	2.8	2.1	1.3	0.3	0.2		9.2
강수일수cm 80mm						0.1	0.4	0.4	0.1				1.0

資料：기상청, 《한국기후표》(1961~1990)

<表 4-9> 韓國 主要都市의 年降水量과 降水日數

주요도시	대구	강릉	서울	인천	포항	전주	울산	광주	부산	목포	여수	제주
강수량·일수												
연강수량(mm)	1030.6	1375.8	1369.8	1170.1	1091.1	1296.2	1272.4	1356.8	1472.7	1111.5	1413.3	1423.6
강수일수」 0.1mm	93.1	109.2	110.1	101.7	99.2	120.4	98.1	126.8	99.7	118.7	103.3	135.7
연증발량(mm)	1311.8	1276.5	1087.2	1196.5	1419.2	1061.6	1288.6	1189.5	1231.9	1236.4	1360.1	1317.7

<表 4-10>은 大邱測候所가 설립된 1907년부터 1990년까지 발생한 대구의 降水極值이다. 이 중 日最大降水量은 1982년 8월 14일 210.1mm로서, 태풍 세실(Cecil)에 의한 것이다. 또 대구는 日降水量이 1.0mm미만의 無降水 계속일수가 84일(64. 11. 6~1. 28)을 기록한 적이 있는데 이것은 한국에서의 무강수계속일수 최고기록이다.

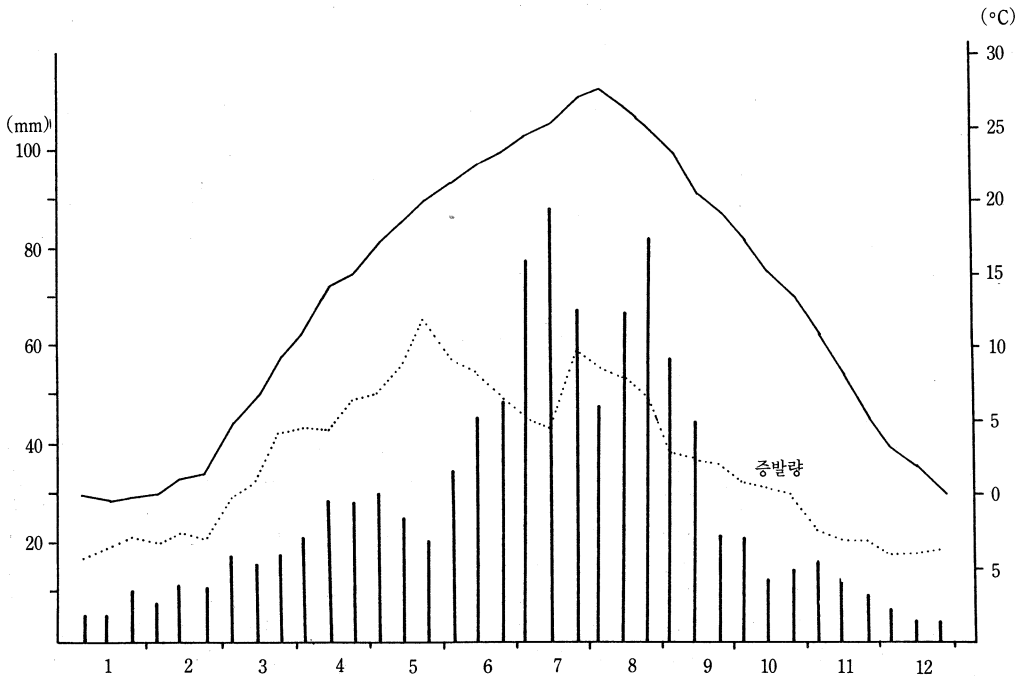
〈表 4-10〉

대구의 강수극치

기상사항	기상값	나타난 날
10분간 최다강수량	25.7mm	31. 8. 4
1시간 최다강수량	80.0mm	41. 7. 6
일최다강수량	210.1mm	82. 8. 14
월최다강수량	601.0mm	34. 7
월최소강수량	—	69. 10
연최다강수량	1564.6mm	1933
연최소강수량	581.0mm	1939
일 최심적설	55.4mm	53. 1. 18
강수계속일수	11일	28. 9. 14~28. 9. 24
무강수계속일수(일 0.1mm 미만)	57일	13. 2 6~13. 4. 3
무강수계속일수(일 1.0mm 미만)	84일	64. 11 6~65. 1. 28

資料：기상청, 《한국기후표》(1961~1990)

《한국강수자료》(1907~1990)



〈圖 4-3〉

대구의 순별 강수량(mm)과 평균기온(°C)

〈表 4-11〉은 대구의 旬別 강수량과 증발량을 나타내었으며 〈圖 4-3〉은 旬別강수량을 圖化하여 나타내었다. 대구의 강수량이 증발량보다 많은 시기는 장마전선이 한반도에 나타나는 7월 上旬부터 시작하여 9월 中旬까지이다. 강수량이 가장 많은 시기는 7월 中旬이며 8월 上旬은 일시적으로 증발량이 강수량이 초과하고 있다. 이 시기는 北太平洋高氣壓이 한반도를 지배하는 盛夏의 季節이다. 9월 하순부터 강수량이 급격히 저하된다.

〈表 4-11〉 대구의 旬別 강수량과 증발량

월	순	요소	강수량	증발량	월	순	요소	강수량	증발량
1	상	순	5.2	16.8	7	상	순	77.1	46.1
	중	순	5.2	18.6		중	순	88.9	43.6
	하	순	10.1	21.4		하	순	67.4	60.3
2	상	순	7.6	20.3	8	상	순	47.8	56.1
	중	순	11.4	22.3		중	순	62.4	62.4
	하	순	9.9	20.4		하	순	82.8	50.3
3	상	순	17.2	28.9	9	상	순	57.3	39.4
	중	순	15.9	32.1		중	순	44.1	37.3
	하	순	17.6	42.1		하	순	21.4	36.7
4	상	순	21.8	42.4	10	상	순	20.8	33.6
	중	순	28.1	43.5		중	순	12.2	31.7
	하	순	28.1	49.0		하	순	13.5	30.5
5	상	순	29.8	50.8	11	상	순	15.9	23.4
	중	순	25.0	56.0		중	순	12.5	20.4
	하	순	20.4	66.1		하	순	9.0	17.5
6	상	순	34.3	57.6	12	상	순	5.7	17.5
	중	순	46.4	55.6		중	순	4.2	17.6
	하	순	48.0	49.5		하	순	4.2	18.9

資料：기상청, 《한국기후표》 1(1961~1990)

〈表 4-12〉 월별 강수량

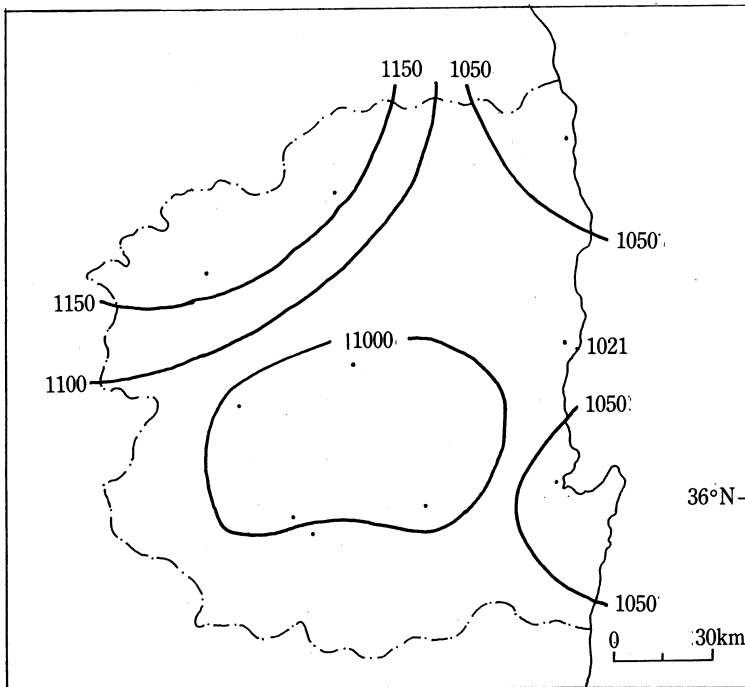
지명	월	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	전년
대구		20.5	28.8	50.7	78.0	75.2	128.6	233.5	193.0	122.8	48.1	37.3	14.1	1030.6
포항		35.8	45.2	63.8	82.7	71.3	128.3	195.5	172.4	154.4	63.4	51.9	25.9	1091.1
울진		49.4	59.8	69.1	79.7	61.9	105.4	145.5	167.1	162.8	88.0	66.2	35.1	1090.0
칠곡		15.2	25.4	38.5	89.8	72.2	129.7	200.7	181.0	124.9	44.4	36.7	13.9	972.4
영주		20.3	27.3	51.6	96.1	88.4	164.7	261.9	222.7	126.4	43.8	37.9	17.2	1158.3
점촌		25.2	32.9	51.0	93.3	93.7	168.6	278.0	205.7	119.1	40.2	40.7	21.7	1170.1
영덕		40.2	51.4	59.3	79.8	62.9	125.5	151.1	176.9	132.5	60.9	54.8	26.1	1021.4
의성		19.2	29.6	43.1	78.0	67.8	134.7	205.3	179.2	119.0	43.6	36.2	17.9	973.6
선산		20.7	31.2	42.5	76.3	63.2	126.6	226.0	181.9	127.5	44.6	35.9	16.5	992.9
영천		23.5	30.4	45.9	80.5	72.3	136.0	193.4	171.8	129.0	46.0	38.1	15.2	982.1

資料：기상청, 《한국기후표》 (1961~1990)

〈表 4-12〉는 대구와 경상북도 주요지점의 월별 강수량이다. 이 강수량을 기준으로하여 대구와 경상북도의 연강수량분포를 〈圖 4-4〉에서 나타내었다.

〈圖 4-4〉를 보면 대구와 인접한 경상북도 남부 내륙지역에 1000mm 等降水量線이 큰 원을 그리고 있어 원의 내부지역의 강수량이 적은 것을 알 수 있다. 이 원에서 북서쪽으로 향하여 강수량이 증가하여 영주, 점촌 주변에는 1150mm線이 지나고 있어서 대구 주변의 경상북도 내륙지역이 남한의 대표적인 少雨地域을 형성하고 있다.

이상에서와 같이 대구는 습윤한 동아시아 季節風帶에 위치하여 동위도상의 세계 타도시에 비하면 降水量이 비교적 많은 도시에 속하나 우리나라의 타도시에 비하면 降水量과 降水日數가 적고 蒸發量이 많아서 우리나라의 대표적인 少雨都市이다.



〈圖 4-4〉 대구와 경상북도의 연강수량분포(mm)

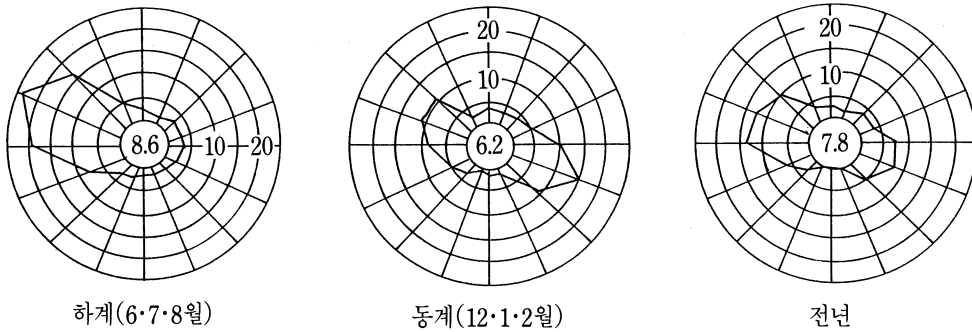
第4節 바 람

한반도는 동아시아의 溫帶季節風帶에 위치하므로 季節風과 偏西風의 지배를 받고 있다. 따라서 겨울은 시베리아에서 발달하는 시베리아고기압의 영향으로 북서풍이 탁월하고 여름은 북태평양에 위치한 북태평양고기압의 영향으로 남서~남동풍이 탁월하다. 그러나 바람은 지형적 영향을 크게 받으므로 地域에 따라 풍향 및 풍속에 있어서 차이가 많다.

대구의 風向別 관측회수의 백분율을 월별로 표시하면 <表 4-13>과 같다. 이것을 기준으로 하여 겨울(1,2,12월), 여름(6,7,8월), 전년의 바람장미(wind rose)를 그려보면 <圖 4-5>와 같다. 대구지방에서 가장 탁월한 풍향을 보면 연중 서풍(13.5%)이 가장 우세하고 겨울은 서북서풍(22.2%), 봄은 서풍(13.0%), 여름은 동남동(15.4%), 가을은 서풍(13.2%)이 가장 우세하다. 여름을 제외하면 대구는 서풍계의 바람이 탁월하다. 이것은 대구가 溫帶西風系에 속하고 또한 지형적으로도 서쪽은 서풍을 차단할 수 있는 지형적 장벽이 없기 때문이다.

<表 4-13> 대구의 풍향별 관측회수의 백분율 (%)

지명 \ 월	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	전년
정온 CALM	8.0	7.5	6.5	6.0	6.2	5.1	6.1	7.4	8.4	11.5	10.8	10.3	7.8
북북동 NNE	1.2	1.4	1.9	2.2	2.4	2.3	3.1	2.9	3.3	2.8	2.4	1.5	2.3
북동 NE	1.9	2.6	2.9	3.8	3.7	3.8	3.6	5.2	5.0	4.9	3.3	1.8	3.5
동북동 ENE	1.9	3.4	3.9	4.7	4.3	5.0	4.9	6.5	6.7	6.0	3.3	2.2	4.4
동 E	3.4	5.2	7.3	10.7	9.5	11.5	11.2	12.1	13.6	10.3	5.8	2.9	8.6
동남동 ESE	2.5	4.8	7.9	12.5	11.6	15.8	15.4	15.1	15.4	8.4	4.0	82.2	9.6
남동 SE	1.5	2.7	5.1	7.8	9.0	11.1	8.5	9.4	8.2	5.2	2.7	1.7	6.1
남남동 SSE	0.5	0.6	1.9	2.1	2.5	3.5	2.6	2.4	2.1	1.7	0.9	0.5	1.8
남 S	0.7	0.6	1.3	1.9	2.5	2.6	3.3	2.6	1.9	1.6	1.2	0.6	1.7
남남서 SSW	0.8	0.6	1.2	1.8	2.0	1.9	2.7	1.7	1.2	1.4	1.3	1.0	1.5
남서 SW	3.2	2.7	3.2	4.2	4.6	4.4	5.4	3.5	3.0	3.3	4.3	3.9	3.8
서남서 WSW	7.7	6.7	6.3	6.5	6.3	5.6	6.9	5.2	4.4	6.4	8.1	9.7	6.7
서 W	18.9	17.7	15.4	12.1	11.5	0.9	9.0	7.7	8.5	13.2	18.1	20.9	13.5
서북서 WNW	24.1	21.0	15.7	10.5	9.2	6.3	5.2	5.3	6.2	9.6	17.1	21.6	12.7
북서 NW	17.8	16.6	12.6	8.0	8.4	6.1	5.7	6.1	6.3	8.3	11.5	13.3	10.1
북북서 NNW	3.9	3.8	4.2	2.8	3.2	2.8	2.7	3.0	2.4	2.4	2.7	3.5	3.1
북 N	2.0	2.0	2.6	2.7	3.1	3.2	3.5	3.7	3.3	3.1	2.6	2.4	2.9



〈圖 4-5〉 대구의 풍향별 관측회수의 백분율(중앙숫자는 정온의 비율임)

〈表 4-14〉 대구의 풍향별 평균풍속 (m/sec)

월	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	전년
풍향													
북북동 NNE	1.2	1.4	1.7	1.7	1.7	1.7	1.6	1.7	1.8	1.4	1.2	1.2	1.5
북동 NE	1.4	2.1	2.0	2.3	2.2	2.3	1.8	2.2	2.0	1.6	1.4	1.2	1.9
동북동 ENE	1.7	2.9	3.2	2.8	3.0	3.0	2.9	3.0	2.5	2.2	1.6	1.3	2.5
동 E	2.4	3.0	3.6	4.2	3.7	3.7	3.5	3.5	3.2	2.6	2.3	1.8	3.1
동남동 ESE	3.1	3.5	4.2	4.8	4.4	4.2	4.0	3.9	3.8	3.3	2.7	2.2	3.7
남동 SE	2.3	2.8	3.6	3.8	3.9	3.7	3.6	3.5	3.1	2.7	2.1	1.8	3.1
남남동 SSE	1.6	1.8	2.9	3.1	3.3	3.3	3.2	3.0	2.6	2.1	1.7	1.3	2.5
남 S	1.5	2.0	2.5	3.0	3.0	2.7	3.2	2.9	2.3	1.7	1.4	1.3	2.3
남남서 SSW	1.8	2.4	2.8	3.6	3.1	3.1	3.3	3.5	2.3	1.9	2.0	1.9	2.6
남서 SW	2.5	2.6	3.0	3.4	3.6	3.1	3.8	3.6	2.6	2.3	2.6	2.6	3.0
서남서 WSW	3.0	3.2	3.5	3.7	3.7	3.4	3.9	3.7	2.7	2.8	3.3	3.1	3.3
서 W	3.4	3.5	3.7	3.6	3.5	3.0	3.1	3.1	2.7	3.0	3.2	3.4	3.3
서북서 WNW	4.6	4.6	4.5	4.2	3.6	3.1	2.6	2.7	3.1	3.7	4.1	4.4	3.8
북서 NW	4.5	4.4	4.1	3.7	3.2	2.5	2.2	2.3	2.6	3.1	3.6	4.0	3.4
북북서 NNW	3.3	3.3	3.4	2.6	2.7	2.2	2.0	2.1	2.2	2.2	2.6	3.2	2.7
북 N	1.4	1.6	2.0	1.8	1.8	1.9	1.7	1.7	1.7	1.4	1.5	1.4	1.7

〈表 4-14〉는 대구의 風向別 平均風速(m/sec)을 월별로 나타낸 것이다. 전년을 통하여 1.2 ~4.8m/sec범위의 바람이 불며 풍속이 4m/sec이상인 바람은 겨울에 서북서풍과 서북서풍과

북서풍, 봄에서 여름이 걸친 동남동풍이다. 대구는 내륙분지에 위치하므로 海陸風의 영향을 받는 해안도시에 비하면 풍속이 느리다.

대구측후소에서 1907년부터 1990년까지 관측된 풍속중에서 임의의 10분간의 평균풍속중 최대값인 日最大風速은 1959년 9월 17일 태풍 사라(Sarah)에 의한 25.3m/sec이며 이때 풍향은 북북동이다. 어느 임의의 한순간에 나타난 풍속중 최대값인 일대최대순간풍속은 1985년 7월 17일 30m/sec이며 이때 풍향은 서북서이다.

이상에서와 같이 대구의 바람은 우리나라의 일반적 경향과 같이 겨울에는 北西季節風이 강하게 불고 여름에는 南東季節風이 우세하며 봄과 가을은 西風이 탁월하여 中緯度 溫帶季節風帶의 특색을 잘 나타내 주고 있다.

第5節 相對濕度

濕度는 대기의 건조상태를 나타내는 요소로서 모든 물질의 腐蝕狀態, 미생물의 번식 등과 밀접한 관계가 있으므로 제조업이나 생산물의 보존상 대단히 중요시하며 화재의 발생에는 바람과 더불어 밀접한 관계를 갖는 氣象氣候要素이다. 그리고 최근 급속한 도시성장과 더불어 밀폐된 공간에 거주하는 아파트 시민의 건강유지상 乾濕의 조절이 주요 관심사이다.

대기 중에 포함된 수분의 양은 여러가지 방법에 의해 표시될 수 있지만 기온에 있어서의 飽和水蒸氣壓에 대한 비율(%)로서 표시되는 상대습도에 의하여 대구의 습도분포의 특색을 살펴보고자 한다.

〈表 4-15〉 韓國 主要都市의 濕度 日照率 雲量 안개

구분 \ 도시	대구	강릉	서울	인천	포항	전주	울산	광주	부산	목포	여수	제주
연평균습도(%)	66	65	68	72	66	73	70	73	67	76	68	74
1월평균습도(%)	60	52	64	65	52	72	56	72	51	72	57	70
7월평균습도(%)	76	80	81	84	80	79	82	82	85	86	85	82
운량 2.5미만일수	99.1	105.8	89.2	100.6	114.2	80.6	108.7	64.2	104.4	77.4	113.0	48.9
운량 7.5이상일수	99.9	112.4	107.3	95.2	96.4	106.6	100.1	121.0	103.9	110.4	96.1	157.7
일조율(%)	53	49	48	52	50	47	52	51	53	47	55	42
안개일수	11.8	12.7	22.7	50.4	8.8	10.5	12.0	16.4	18.3	24.5	24.2	13.6

資料: 기상청, 《한국기후표》(1961~1990)

〈表 4-15〉 韓國 主要都市의 濕度 日照率 雲量 안개

구분 \ 도시	대구	강릉	서울	인천	포항	전주	울산	광주	부산	목포	여수	제주
연평균습도(%)	66	65	68	72	66	73	70	73	67	76	68	74
1월평균습도(%)	60	52	64	65	52	72	56	72	51	72	57	70
7월평균습도(%)	76	80	81	84	80	79	82	82	85	86	85	82
운량 2.5미만일수	99.1	105.8	89.2	100.6	114.2	80.6	108.7	64.2	104.4	77.4	113.0	48.9
운량 7.5이상일수	99.9	112.4	107.3	95.2	96.4	106.6	100.1	121.0	103.9	110.4	96.1	157.7
일조율(%)	53	49	48	52	50	47	52	51	53	47	55	42
안개일수	11.8	12.7	22.7	50.4	8.8	10.5	12.0	16.4	18.3	24.5	24.2	13.6

資料 : 기상청, 《한국기후표》(1961~1990)

〈表 4-16〉 월별 상대습도 (%)

도시 \ 월	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	전년
대 구	60	60	59	60	62	69	76	75	74	69	66	63	66
포 항	52	56	59	63	66	75	80	79	77	69	62	55	66
울 진	55	61	66	66	68	79	83	82	79	71	64	56	69
칠 곡	61	60	60	62	64	71	79	77	77	69	62	55	66
영 주	63	62	63	60	64	73	81	80	79	74	70	67	70
검 춘	58	58	57	56	59	68	77	76	74	68	66	62	65
영 덕	52	57	63	63	64	74	80	80	78	69	61	55	66
의 성	68	67	67	63	65	70	77	78	78	75	74	72	71
선 산	64	64	65	62	65	72	80	79	78	73	71	65	70
영 천	59	60	62	60	63	71	76	76	76	71	67	63	67

資料 : 기상청, 《한국기후표》(1961~1990)

대구의 연평균습도는 〈表 4-15〉와 같이 66%로서 남한의 타도시에 비하면 낮다. 대구의 습도는 우리나라에서 강릉(65%) 다음으로 가장 낮고 年日照率은 53%로서 여수(55%) 다음으로 높다. 또한 하늘 전체를 10으로 하여 구름으로 덮여 있는 부분은 10분수로 표시할 때 雲量 7.5이상인 흐린날(曇天日) 日數는 대구가 99.9일로서 여수(96.1일) 다음으로 낮아서 우리나라에서 少雨都市, 乾燥都市임을 알 수 있다. 이와 같이 건조하고 日照率이 높아서, 氣溫의 日較差가 큰 기후조건은 대구근교 琴湖江유역의 砂質土와 결합하여 대구가 일찍부터 사과와 고장으로서 명성을 떨치게 하였다. 일조율이 높으면 탄소동화작용이 활발하고 일교차가 크면 당분이 많이 축적되어 사과의 품질이 좋아지기 때문이다.

습도의 계절적 분포를 <表 4-16>에서 살펴보면 대체로 여름철은 높고 겨울철은 낮다. 겨울과 봄은 습도 60% 내외이고 여름은 70%를 초과한다. 이와 같이 계절적인 습도분포의 차가 생기는 것은, 여름철은 장마전선과 고온다습한 북태평양고기압의 영향을 받아서 습도가 높고 겨울철은 한랭건조한 대륙기단인 시베리아고기압의 영향을 받아서 습도가 낮기 때문이다. 1907년부터 1990년까지 대구에서 관측된 일최저습도는 1983년 2월 28일 기록된 7%이다.

第6節 自然季節

우리나라는 中緯度 溫帶季節風帶에 속해 있으므로, 봄, 여름, 가을, 겨울 등 4계절의 구분이 뚜렷하다. 한반도의 북서쪽에는 유라시아대륙이 있고 동남쪽에는 넓은 태평양이 위치하여 겨울에는 시베리아高氣壓에서 불어오는 북서계절풍이 여름에는 北太平洋高氣壓에서 불어오는 남동 내지 남서계절풍이 각각 겨울과 여름의 일기를 지배한다. 봄과 가을에는 시베리아 고기압에서 떨어져 나온 移動性 高氣壓과 중국에서 발생된 低氣壓이 자주 한반도와 그 근처를 지나 東進하게 되므로 日氣變化가 잘 일어난다.⁷⁾

보통 계절이라 하면 春(3,4,5월) 夏(6,7,8월) 秋(9,10,11월) 冬(12,1,2월)의 4季節을 편이상 구분하여 통용되지만 구분방법과 지역에 따라 여러가지 계절이 있다. 季節의 추이는 태양의 운행과 관계가 깊으므로 태양의 天球上의 위치에 따라 구분하는 天文學的 季節이 있다. 고래로 중국에서는 1년을 통한 태양의 움직임을 24등분 약 15일마다 구분한 24節氣를 지금까지 우리나라에서 널리 이용되고 있다. 또한 季節에는, 식물의 생장이 기후의 영향을 가장 예민하게 반영하고 있어서 계절의 변화에 따라 식물의 모양이나 색깔이 변화하므로 식물이 변하는 모습을 보고 정하는 植物季節, 농작물의 파종 發芽, 出穗, 開花, 成熟, 수확의 시기와 관련되는 農事季節등이 있으나, 근래 氣象學的 또는 氣候學的 季節이라고도 부르는 自然季節이 구분되어 널리 이용되고 있다. 이것은 日射, 氣溫, 降水, 바람, 氣壓, 氣團, 前線 등 여러 氣象的, 氣候的 要素를 토대로 구분한 것이다.⁸⁾

7) 金光植 外, 앞의 책, 1982, p. 70.

8) 金蓮玉, 앞의 책, 1987, p. 73.

氣溫은 季節變化를 가장 잘 나타내고 있어서 日平均氣溫, 日最低氣溫, 日最高氣溫을 기준으로 대구의 自然季節을 初冬·嚴冬·晩冬·早春·春·晩春·初夏·장마·盛夏·晩夏·初秋·秋·晩秋의 13개 계절로 구분하면 〈表 4-17〉과 같다.

〈表 4-17〉 氣溫을 기준으로 한 대구의 季節區分

季 節	期 間	日平均氣溫	日最低氣溫	日最高氣溫
初冬	11. 29~12. 25	5℃이하	0℃이하	—
嚴冬	12. 26~ 2. 4	0℃이하	-5℃이하	—
晩冬	2. 5~ 3. 8	5℃이하	0℃이하	—
早春	3. 9~ 3. 29	5℃~10℃	0℃이상	—
春	3. 30~ 4. 22	10℃~15℃	5℃이상	—
晩春	4. 23~ 5. 26	15℃~20℃	10℃이상	—
初夏	5. 27~ 6. 23	20℃~25℃	—	25℃이상
장마	6. 24~ 7. 12	20℃~25℃	—	25℃이상
盛夏	7. 13~ 8. 22	25℃이상	—	30℃이상
晩夏	8. 23~ 9. 20	20℃~25℃	—	25℃이상
初秋	9. 21~10. 15	15℃~20℃	10℃이상	—
秋	10. 16~11. 9	10℃~15℃	5℃이상	—
晩秋	11. 10~11. 28	5℃~10℃	0℃이상	—

季節區分은 구분지표에 따라 계절추이가 전국적으로 일치하지 않고 계절적으로 早晚이 나타나고 있다. 〈表 4-18〉은 諸指標에 따른 우리나라의 季節推移를 나타낸 것이다. 〈表 4-17〉에서 대구의 겨울은 11월 29일 시작하여 이듬해 3월 8일까지 100일간 지속되며, 봄은 3월 9일 시작하여 5월 26일까지 79일, 여름은 5월 27일 시작하여 9월 20일까지 117일, 가을은 9월 21일 시작하여 11월 28일까지 69일간 지속된다. 따라서 대구는 봄과 가을이 짧고 여름과 겨울이 길다. 특히 대구의 봄은 짧을 뿐만 아니라 꽃샘추위라고 불리는 저온 特異일(singularity)이 나타나서 봄이 오는 듯하다가 다시 추워서 겨울과 유사한 날씨로 되돌아가서 시민의 생활과 건강에 많은 영향을 주게 된다. 대구의 春季 低溫 特異日은 3월 11·12일, 25일·26일, 4월 16·17·18일에 나타날 확률이 높다.⁹⁾ 따라서 대구시민의 體感溫度로서 느끼는 봄은 더욱

9) 金廷烈, 〈꽃샘추위의 氣候學的 特性〉慶北大學校 大學院 碩士論文, 1987, p. 15.

〈表 4-18〉 諸指標에 따른 우리나라의 季節推移

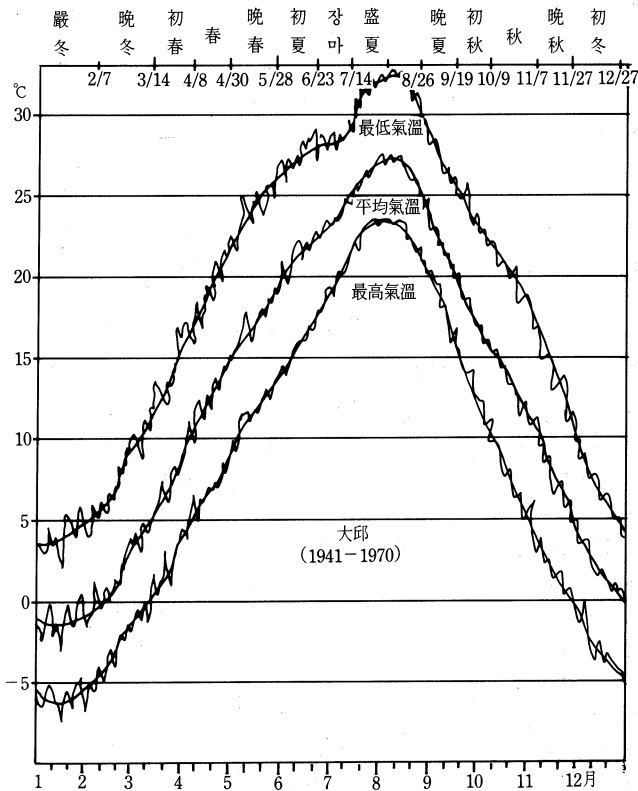
24節氣	半 旬	河村(1973)		李炳高(1979)			文勝義 嚴香姬 (1980)	姜萬石	
		北部	中部	서울	大邱	濟州		地上	500mb
1.6 小寒	1 1- 1 5 1 6- 1 10 1 11- 1 15								
1.20 大寒	1 16- 1 20 1 21- 1 25 1 26- 1 30	眞冬	眞冬		嚴冬			嚴冬	嚴冬
2. 4 立春	1 31- 2 4 2 5- 2 9 2 10- 2 14	2.3	2.3		2.7	冬	冬	8	8
2.19 雨水	2. 15- 2. 19 2 20- 2 24 2 25- 3 1			2.23	晚冬	2.20	12	晚冬	晚冬
3. 6 驚蟄	3 2- 3 6 3 7- 3 11 3 12- 3 16	晚冬	晚冬	晚冬	早春	早春	早春	12	13
3.21 春分	3 17- 3 21 3 22- 3 26 3 27- 3 31			3.18	早春	3.16	18	早春	早春
4. 5 清明	4 1- 4 5 4 6- 4 10 4 11- 4 15	4.6	4.6	4.11	4.8	春	20	19	
4.20 穀雨	4 16- 4 20 4 21- 4 25 4 26- 4 30	早春	早春	春	4.30	4.23	春	春	春
5. 6 立夏	5 1- 5 5 5 6- 5 10 5 11- 5 15		5.12	5.6	晚春	晚春		春	春
5.21 小滿	5 16- 5 20 5 21- 5 25 5 26- 5 30	5.20		晚春	5.28	5.30	30	30	31
6. 6 芒種	5 31- 6 4 6 5- 6 9 6 10- 6 14		春	初夏	初夏	初夏	晚春	晚春	晚春
6.22 夏至	6 15- 6 19 6 20- 6 24 6 25- 6 29 6 30- 7 4	春	6.24	6.24	6.24	6.17	35	36	35
			장		장마	장마	初		初

24節氣	半 旬	河村(1973)		李炳高(1979)			文勝義 嚴香姬 (1980)	姜萬石	
		北部	中部	서울	大邱	濟州		地上	500mb
7. 8 小暑	7 5- 7 9	↓	마	장	↓	↓	夏	初夏	夏
	7 10- 7 14	7.10	↓	마	7.14	7.14	↓	↓	↓
7.23 大暑	7 15- 7 10	↑	↓	↓	↑	↑	40	41	40
	7 20- 7 24	初夏	7.20	7.23	↓	↓	↑	↑	↑
	7 25- 7 29	7.29	↑	↑	↓	↓	↓	↓	↓
8. 8 立秋	7 30- 8 3	↑	夏	↓	盛夏	盛夏	盛夏	盛夏	盛夏
	8 4- 8 8	夏	↓	盛夏	↓	↓	↓	↓	↓
	8 9- 8 13	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓
8.24 處暑	8 14- 8 18	8.16	8.16	↓	↓	↓	↓	↓	↓
	8 16- 8 23	↑	↑	↓	↓	↓	47	47	47
	8 24- 8 28	가장	가장	8.25	8.26	8.28	↑	↑	↑
	8 29- 9 2	을마	을마	↑	↑	↑	晚夏	晚夏	晚夏
9. 8 白露	9 3- 9 7	↓	↓	가장晚	가장晚	晚	50	50	49
	9 8- 9 12	9.8	9.8	을마夏	을마夏	夏	↑	↑	↑
	9 13- 9 17	↑	↑	9.17	9.18	↓	初秋	初秋	初秋
9.23 秋分	9 18- 9 22	↑	↑	↑	↑	↓	↓	↓	↓
	9 23- 9 27	↑	↑	初秋	初秋	9.24	54	53	53
	9 28-10 2	秋	↑	↓	↓	↓	↑	↑	↑
10. 9 寒露	10 3-10 7	↑	秋	↓	↓	↓	秋	秋	秋
	10 8-10 12	↑	↑	10.8	10.9	初秋	↓	↓	↓
	10 13-10 17	↑	↑	↑	↑	↓	↓	↓	↓
10.24 霜降	10 18-10 22	↑	↑	秋	↑	↓	↓	↓	↓
	10 23-10 27	10.23	↓	↓	秋	↓	60	60	60
	10 29-11 1	↑	10.28	↓	↓	10.28	↑	↑	↑
	11 2-11 6	↑	↑	11.4	↓	↓	晚秋	晚秋	晚秋
11. 8 立冬	11 7-11. 11	↑	↑	晚秋	11.7	↓	↓	↓	↓
	11 12-11. 16	↑	↑	↓	↑	秋	↓	↓	↓
	11 17-11 21	初冬	初冬	11.26	11.27	11.27	66	67	67
11.23 小雪	11 22-11 26	↑	↑	↑	↓	↓	↑	↑	↑
	11 27-12 1	↑	↑	↓	↓	↓	初冬	初冬	初冬
	12 2-12 6	↑	↑	冬	↓	晚秋	69	70	70
12. 7 大雪	12 7-12 11	↑	↑	↓	初冬	↓	↑	↑	↑
	12 12-12 16	↑	↑	12.13	↓	↓	↑	↑	↑
	12 17-12 21	12.18	12.18	↑	↓	12.23	↑	↑	↑
12.22 冬至	12 22-12 26	↑	↑	↑	↓	↓	↑	↑	↑
	12 27-12 31	↑	↑	↑	12.27	↓	↑	↑	↑

資料：姜萬石,《韓國의 自然季節區分에 관한 宗觀氣候學的 研究》, 1981에 의한.

짧게 된다. 대구의 日平均氣溫, 日最高氣溫, 日最低氣溫의 季節的 變化를 나타내면 〈圖 4-6〉과 같다.

季節추이의 指標가 되는 대구의 계절값 및 계절이 바뀌었음을 상징하는 자연현상 즉 눈, 얼음, 서리, 開花, 철새를 본 첫날과 마지막날을 정리하면 〈表 4-19〉와 같다. 대구에서의 일평균기온 0°C 이하의 날이 평균적으로 처음 나타난 날은 12월 4일이고 마지막 날은 3월 2일이며 가장 추운 날은 1월 14일로 일평균기온 -1.8°C 일최저기온 -6.3°C 이다. 1월 14일은 24節氣로서는 小寒(1월 6일)과 大寒(1월 20일)사이에 있다. 일최고기온 0°C 이하의 한겨울(嚴冬)은 12월 25일 처음 나타나고 마지막날은 이듬해 2월 8일이다. 이 기간은 대구의 自然季節區分에서의 嚴冬期間과 유사하다.



〈圖 4-6〉 日平均氣溫의 季節的 變化(大邱, 1941~1970年 平均, 李炳堧(1979)에 의함)

〈表 4-19〉

대구의 계절값

구 분	첫 날			마 지 막 날		
	평년	가장이름	가장늦음	평년	가장이름	가장늦음
일평균기온 0℃이하	12. 4	24. 11. 9	59. 1. 3	3.2	90. 1. 28	58. 3. 28
일최고기온 0℃이하	12. 25	70. 11. 30	44. 2. 15	2. 8	12. 1. 2	33. 3. 6
일최고기온 25℃이상	4. 20	41. 3. 20	16. 5. 11	10. 11	54. 9. 23	20. 11. 8
일최저기온 25℃이상	7. 20	78. 6. 26	43. 8. 21	8. 10	88. 7. 12	39. 8. 37
일최고기온 30℃이상	5. 21	88. 4. 30	54. 6. 16	9. 9	40. 8. 24	79. 10. 3
눈	11. 27	81. 10. 23	49. 1. 3	3. 13	90. 2. 1	63. 4. 9
얼음	11. 6	37. 10. 17	75. 11. 23	3. 30	71. 3. 15	47. 4. 22
서리	10. 27	35. 10. 8	—	3. 26	—	45. 5. 6
제비 처음 본 날	4. 16	73. 3. 29	—	—	—	—
개나리 개화일	3. 25	62. 3. 13	—	—	—	—
진달래 개화일	3. 29	75. 3. 25	—	—	—	—
벚꽃 개화일	4. 6	82. 3. 29	—	—	—	—

資料：기상청, 《한국기후표》(1961~1990)

《한국기후편람》(1985)

일최고기온 30℃이상의 날을 眞夏日이라고 하고 또 야간이 되어도 일최저기온이 25℃이상인 되어 잠 이루기 힘든 밤을 熱帶夜라고 한다. 이 진하일과 열대야의 일수는 여름 더위의 척도가 된다.¹⁰⁾ 진하일에 해당되는 일최고기온 30℃이상이 처음 나타난 날은 평균적으로 5월 21일이며 마지막날은 9월 9일이다. 한여름(盛夏)에 속하는 일최고기온 30℃이상이 지속되는 기간은 7월 15일부터 8월 22일까지 39일간으로 한국 타도시에 비해 아주 길다. 가장 더운 날은 8월 1일로서 일최고기온 33.1℃ 일평균기온 28℃이다. 일최저기온 25℃이상의 熱帶夜가 처음 나타나는 날은 평균적으로 7월 20일 마지막날은 8월 10일로서, 이 기간이 대구에서 가장 더운 기간이다.

대구의 初霜日은 10월 27일로서 서울보다는 7일 늦지만 부산보다는 25일이나 빠르다. 終霜日은 3월 26일로서 서울보다는 14일 빠르고 부산보다는 32일이나 늦다. 대구의 無霜期間은 215이다. 첫얼음은 11월 7일에 얼고 마지막 얼음은 3월 30일이며 첫 눈은 11월 27일에 오고 마지막 눈은 3월 13일에 온다. 제비는 4월 16일에 처음 보며 대구의 개나리는 3월 25일, 진달래는 3월 29일, 벚꽃은 4월 6일에 각각 꽃이 핀다.

10) 文勝義, 《기상환경의 이해》, 地球文化社, 1987, p. 59.

第5章 土壤·植生

第1節 土 壤

토양은 충분한 시간동안 成熟되면 그 母村의 성격과는 별개로 그 지방의 氣候와 植生の 특성을 반영하는 成熟土가 되는데 이와 같은 관점에서 본 세계의 대토양군을 成帶土壤이라 한다. 이 成帶土壤의 관점에서 대구시에 분포하고 있는 成熟土의 토양명을 붙이면 溫帶 濕潤氣候와 混合林 식생과 관련되어 나타나는 灰褐色森林土(gray-brown podzolic soil)라 할 수 있다. 그러나 未成熟土는 산지의 風化殘積土인 岩碎土(lithosols)와 河川邊의 運積土인 河成沖積土(regosols)가 그것이다.

대구지역 안에 있는 토양을 農村振興廳에서 분류 작성한 精密土壤圖¹⁾를 기초로 좀더 세분하여 그 특성을 알아보면 다음과 같다.

I. 大邱統

頁岩과 砂岩으로 된 侵蝕低地 및 丘陵地 표면에 형성된 風化殘積層을 모재로 형성된 토양이다. 土深이 얇고, 基盤岩의 부서진 角礫을 많이 포함하는 褐色, 暗褐色 및 黃褐色의 砂質壤土 혹은 微砂質壤土이다. 弱酸性이며, 鹽基置換容量 및 鹽基飽和度는 높다. 대구 분지저의 침식저지 및 구릉지에 분포되어 있으며, 경사가 완만한 곳은 밭농사, 과수농업등이 이루어지고 있으며, 경사가 급한곳은 삼림이 형성되어 있다.

II. 達川統

花崗岩 風化殘積層을 모재로 형성된 토양이다. 갈색, 암갈색, 황적색, 적색의 다양한 토색을 나타내는 사질 양토이다. 유기물 함량이 낮으며, 비옥도도 낮고 산성이다. 염기치환용량은 높으나 염기포화도는 낮다. 화강암으로 된 八公山 주산체에 주로 분포하며, 거의 삼림지를 이루고 있다.

1) 한국토양조사사업기구, 《정밀토양도(대구시 및 달성군)》, 농촌진흥청 식물환경연구소, 1971.

III. 無等統

斑岩, 安山岩, 玢岩 등 中性岩의 풍화잔적물을 모재로한 토양이다. 갈색, 암갈색, 황갈색의 토색을 띠며, 塊狀構造를 갖는 미사질 양토이다. 강한 산성반응을 나타내며, 염기치환용량은 중정도이고, 염기포화도는 낮으며, 비옥도도 낮다. 앞산, 龍池山 등 남부산지에 주로 분포하며, 삼림지를 이루고 있다.

IV. 湖南統

하성 충적층을 모재로 평탄지에 형성된 過腐植 灰色土이다. 토양 배수가 불량하며, 토심이 깊은 식질토이다. 토양 비옥도가 높고, 유기물 함량도 2-3%로 상당히 많다. 표토는 약한 산성이나 내려갈수록 중성에 가깝다. 염기 치환용량은 보통이나 염기포화도는 높다. 琴湖江 및 新川 氾濫原의 背後濕地에 분포하며, 논농사의 적지이다.

V. 洛東統

하성 충적층 특히 自然堤防 혹은 舊河床 퇴적물을 모재로 형성된 토양으로 암갈색, 황갈색 양질사토이며, 토심이 깊은것이 특색이다. 유기물의 함량이 적고 비옥도가 낮다. 약한 산성을 띠며, 염기치환용량은 매우낮고, 염기포화도는 높다. 금호강과 신천의 자연제방에 분포하는 토양으로 전작의 적지이다.

VI. 喻伽統

谷中충적물을 모재로 형성된 토양으로 배수가 약간 불량하고 토심이 보통이다. 회갈색, 암회갈색, 황갈색의 미사질 양토 및 미사질 식양토이다. 유기질이 어느정도 있고 비옥도도 비교적 높은 편이다. 토성은 중성 내지 염기성이며, 염기치환용량 및 염기포화도도 높다. 침식저지 및 침식구릉지의 開析谷地에 형성된 谷底平野에 주로 분포해 있다.

VII. 壯元統

安山岩質岩, 花崗岩, 頁岩들의 풍화산물이 산록에 쌓여서 형성된 崖錐퇴적물, 혹은 扇狀地퇴적물을 모재로 형성된 토양이다. 황갈색의 자갈을 포함한 사질양토로 토심이 깊고, 약한 산성을 띠며, 염기치환용량은 보통이고, 염기포화도는 높다. 남부산지 북쪽과 북부산지 남쪽에 분포하고 있는 盆地緣 扇狀地의 토양이다.

이상에서 본 토양들은 대부분이 경작활동에 의하여 심하게 層位가 교란되었고 화학비료 사용, 산성비 등으로 원래의 토성보다 최근에 훨씬 더 산성화 되어있다.

第2節 植 生

우리나라의 식생 분포는 제주도와 남해안 일대의 暖帶林이 분포하고, 개마고원과 고산지대에 冷帶林이 분포하며, 그 나머지지역은 溫帶 混合林 地帶이다. 이 온대림 지대는 다시 온대 남부, 온대 중부, 온대 북부 식생대로 세분된다.

대구지역은 온대남부 식생대에 해당된다. 따라서 식생의 구성도 소나무 향나무 등의 침엽수림과 참나무, 느티나무 등의 활엽수림의 혼합림으로 대부분의 식물상을 이루고 있지만 난대림 분포지역에 근접해 분포해 있으므로 暖帶 照葉樹林 및 甕굴식물도 상당히 포함되어 있는 林相을 보이고 있다.

八公山, 琵琶山, 最頂山을 중심으로 대구 주변지역의 식물상에 대한 분류학적 연구(吳修榮, 金源, 1978)²⁾에 의하면 대구지역의 維管束植物은 총 122科, 458屬, 780種, 3亞種, 186變種 및 18品種으로 합 987種에 이르며 이것은 한국 所產 有關속식물 총수 3,929種에 대하여 25.1%를 차지하는 풍부한 식물상을 구성하고 있다고 보고하고 있다. 식물 분류학적 견지에서 대구지역의 식물상은 Sino-Japanese植物區系중의 溫帶 亞區系에 속하며 온대성 식물이 주이고, 여기에 일부 난대식물이 혼재하고 한국 고유분자와 일본 공통분자, 만주 공통분자로 구성되어 있다.

주요 木本 橋木은 針葉樹로 소나무, 잣나무, 비자나무, 전나무, 향나무, 노간주나무, 측백나무

2) 吳修榮·金源, 〈大邱地域의 植物相에 관한 分類學的 및 生態學的 研究〉, *Nature and Life* 8, 1978, supplement pp. 1~53.

등이 있고, 橋木 闊葉樹로는 버드나무, 사시나무, 은행나무, 호도나무, 굴피나무, 오리나무, 자작나무, 박달나무, 서나무, 개암나무, 밤나무, 상수리나무, 참나무, 떡갈나무, 신갈나무, 팽나무, 느릅나무, 느티나무, 목련, 뽕나무, 비목나무, 살구나무, 벚나무, 복숭아나무, 돌배나무, 물푸레나무, 가죽나무, 소태나무, 옷나무, 단풍나무, 감탕나무, 대추나무, 피나무, 오동나무, 음나무, 감나무, 고욤나무 등이 있다.

木本 灌木으로는 닥나무, 산딸기나무, 찔레나무, 복분자딸기나무, 국수나무, 싸리나무, 탕자나무, 조피나무, 산초나무, 회양목, 진달래, 철죽, 개나리나무, 쥐똥나무, 백동백나무, 앵도나무, 두릅나무, 오갈피나무 등이 있으며, 木本 덩굴식물로는 으름덩굴, 머루덩굴, 다래덩굴, 오미자덩굴, 인동덩굴 등이 있다. 이들 중에 삼림의 주종을 이루는 것은 소나무(陸松)와 참나무이다.

그 밖에도 인공적인 조림에 의하여 砂防植樹로 심었던 아까시아나무가 번식하여 낮은 구릉지에는 이것이 태반을 차지하고 있으며, 부분적으로 낙엽송, 히말라야시이자, 리키타송 등이 인공적으로 조성되어 있다.

